

第 38 回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議

日時：令和 3 年 2 月 19 日（金）16 時 00 分～

場所：大阪府新別館南館 8 階 大研修室

次 第

議 題

（1）現在の感染状況・療養状況等

- ・現在の感染状況について【資料 1 - 1】
- ・現在の療養状況について【資料 1 - 2】
- ・緊急事態措置にかかる取組状況【資料 1 - 3】
- ・滞在人口の推移【資料 1 - 4】

（2）新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態措置に関する要請について

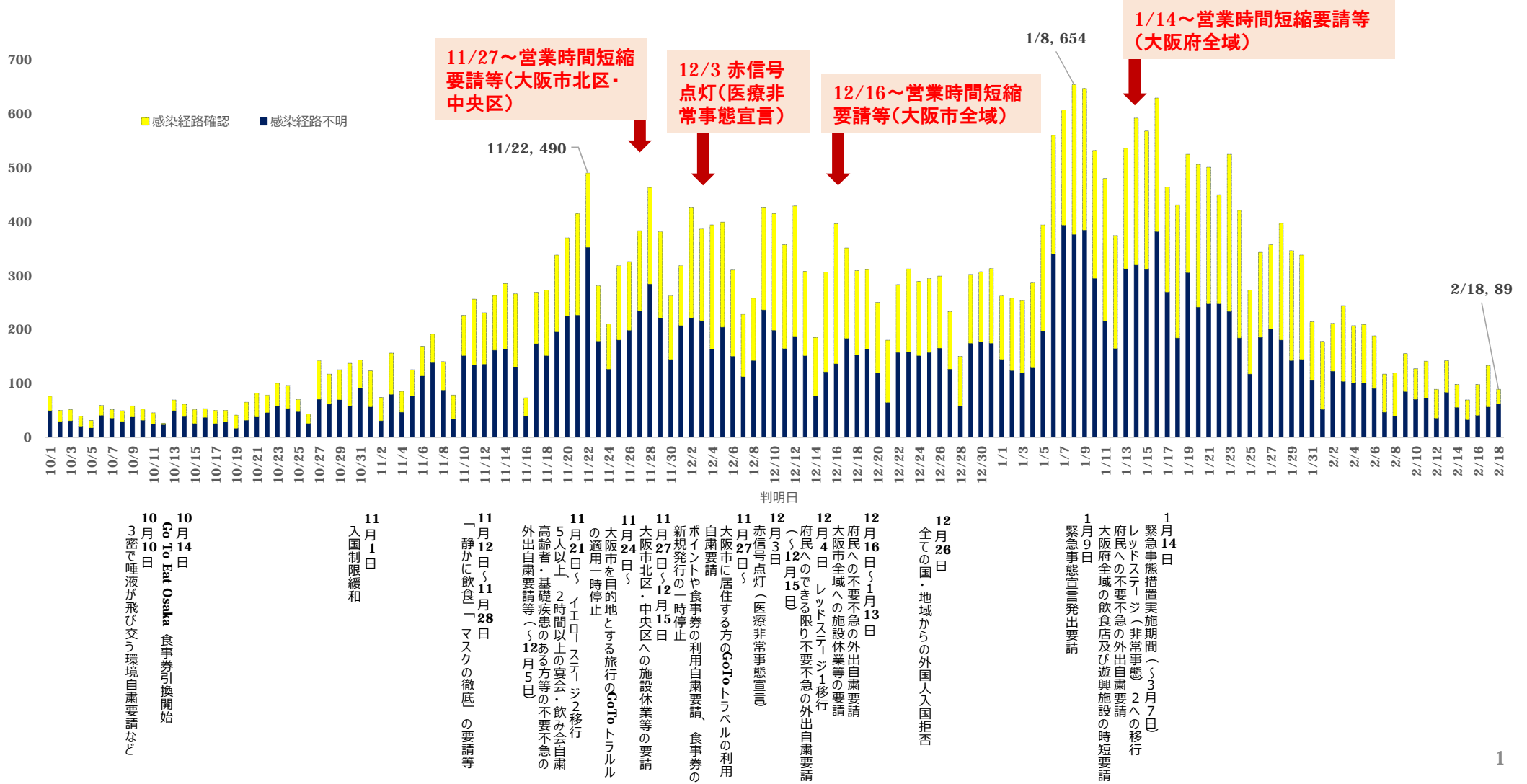
- ・発生状況及び要請内容に関する専門家の意見【資料 2 - 1】
- ・緊急事態措置の解除に関する国への要請【資料 2 - 2】
- ・専門家ご提案の緊急事態宣言解除要請の考え方について【資料 2 - 3】
- ・大阪モデルの信号について【資料 2 - 4】
- ・受入病床のフェーズ移行について【資料 2 - 5】

（3）その他

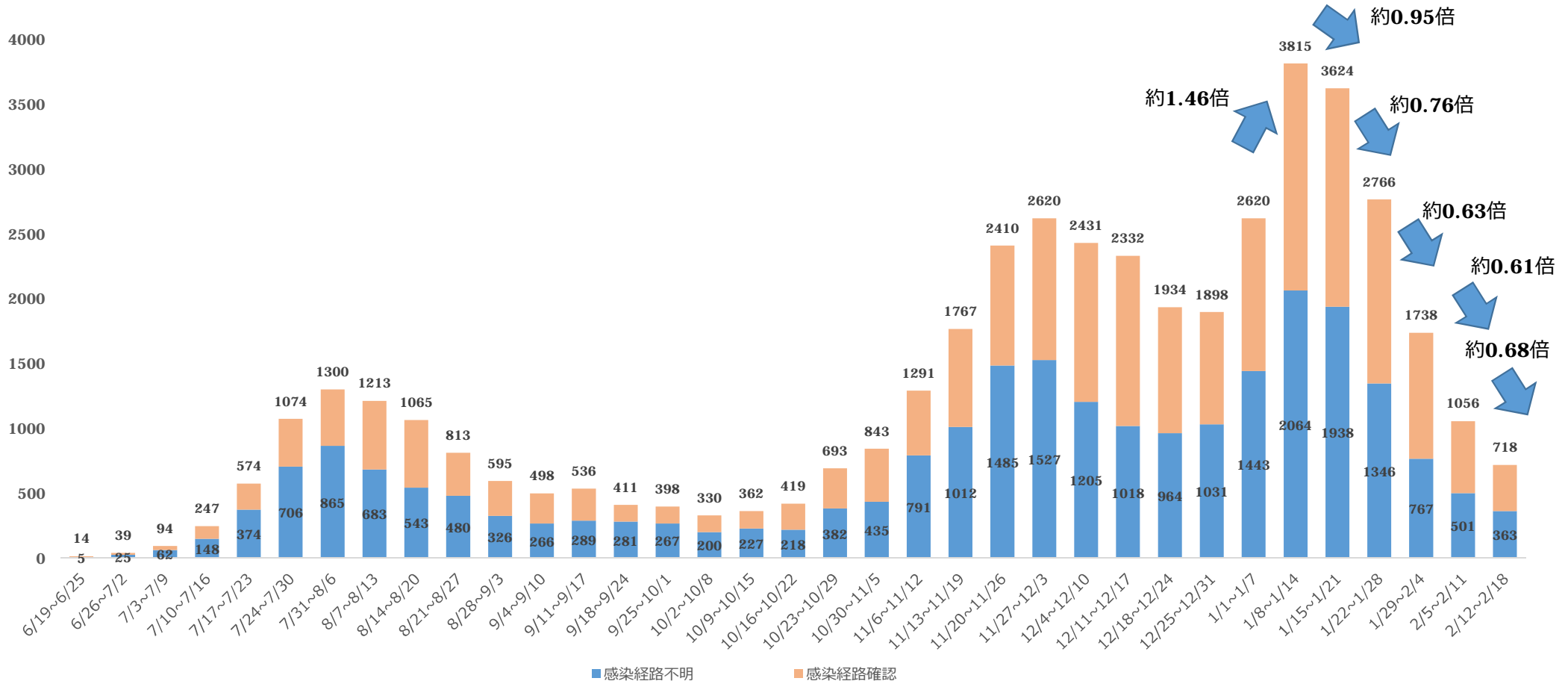
- ・第 37 回対策本部会議での専門家の意見を踏まえた取り組みについて【資料 3 - 1】
- ・円滑な転院支援による病床確保について【資料 3 - 2】
- ・今後の保健所体制の強化について【資料 3 - 3】

陽性者数の推移

資料 1 - 1



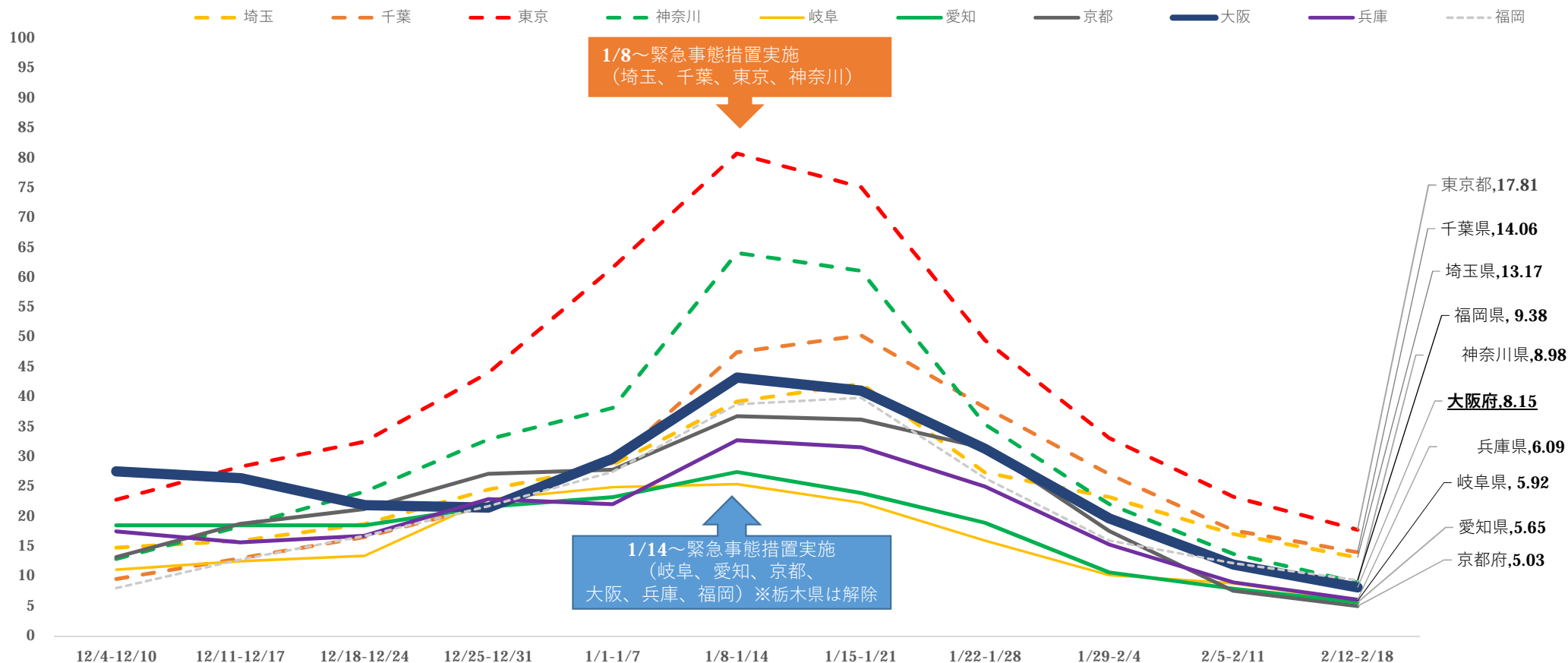
7日間毎の新規陽性者数



1月14日以降の緊急事態措置実施により、新規陽性者数は大きく減少。(直近1週間の一日平均103名)

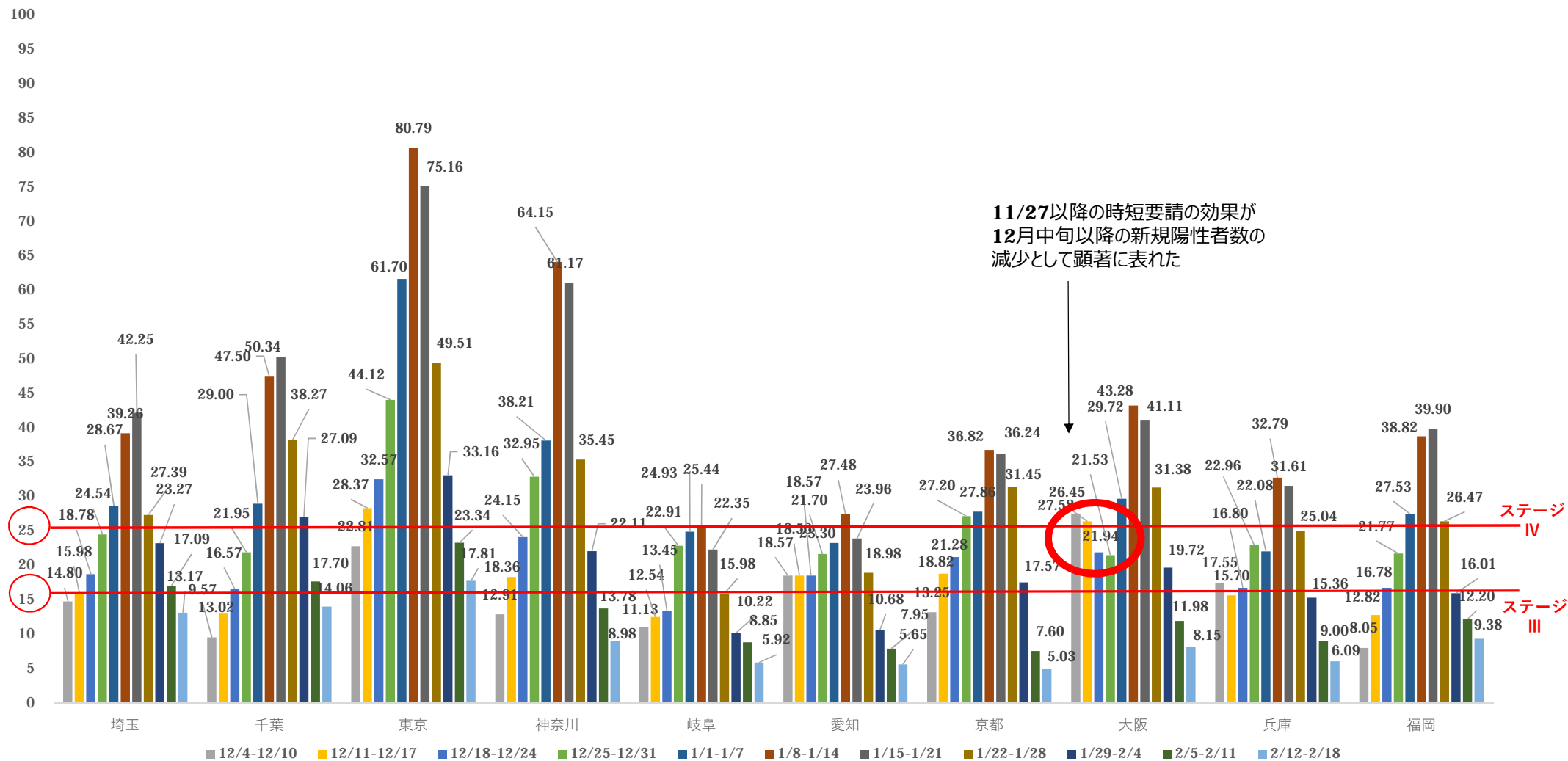
緊急事態宣言対象区域 週・人口10万人あたり新規陽性者数

◆ 緊急事態措置実施後、各都道府県で新規陽性者数が大きく減少。大阪府も他都道府県と同様に大きく減少し、兵庫県や京都府と同様、国分科会指標ステージⅢの基準(15人)を下回っている。



※各都道府県ホームページ公表数値を基に、大阪府の分析による

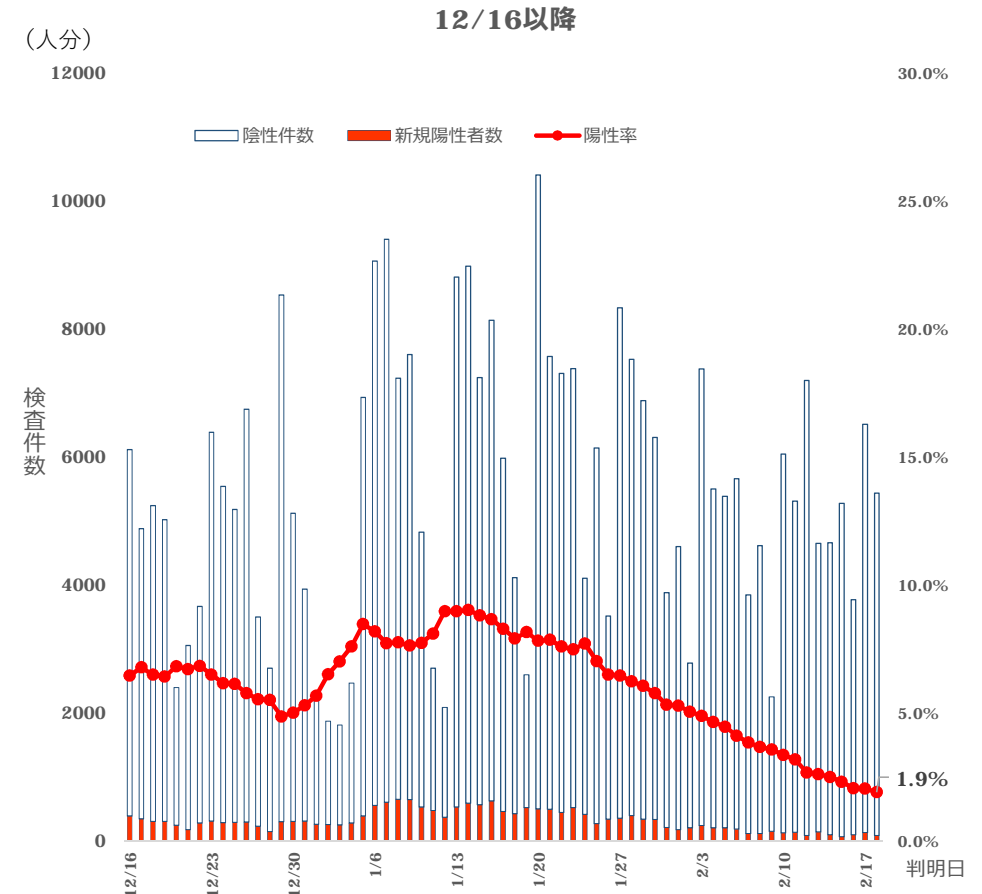
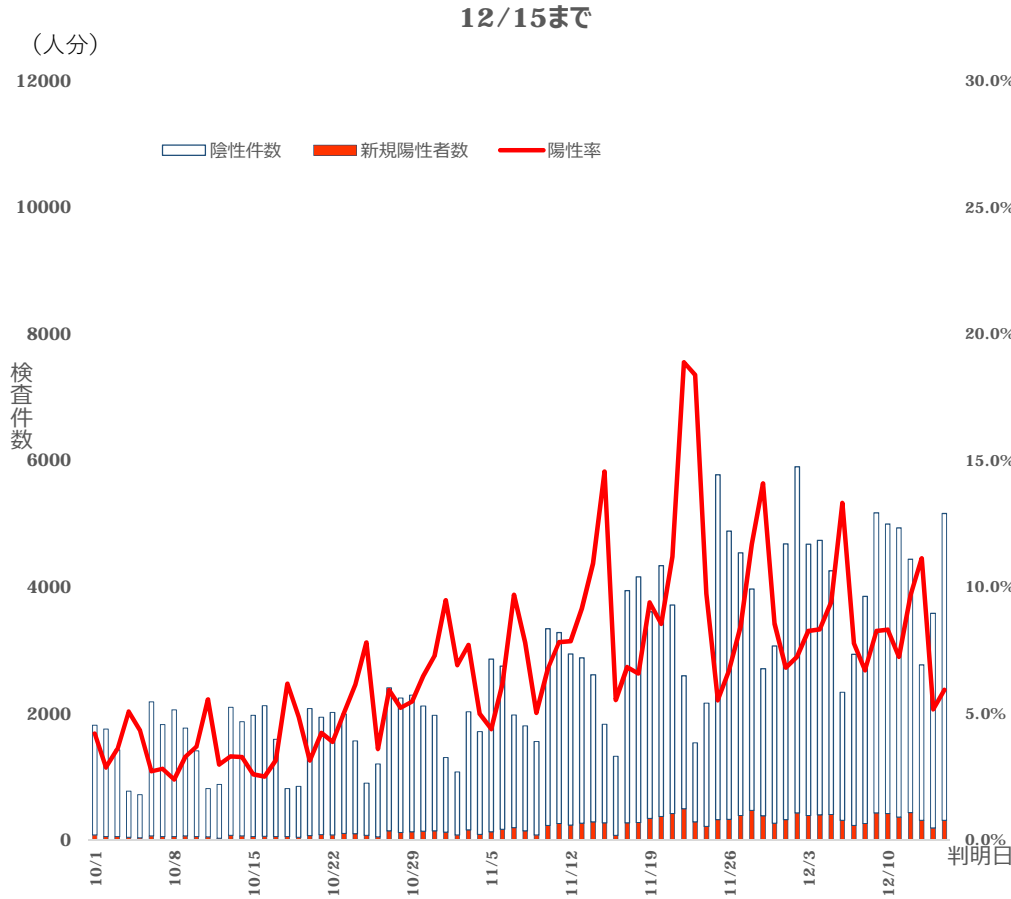
緊急事態宣言対象区域 週・人口10万人あたり新規陽性者数



※各都道府県ホームページ公表数値を基に、大阪府の分析による

検査件数と陽性率

◆ 陽性率は、1月15日以降低下し、2月18日時点で1.9%。



※12月15日より国システム（G-MIS）を使用し、算出方法を「1週間の陽性者数/1週間の検体採取をした人数」に変更

「大阪モデル」モニタリング指標の状況

分析事項	モニタリング指標	府民に対する警戒の基準	府民に対する非常事態の基準	府民に対する非常事態解除の基準	府民に対する警戒解除の基準	2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18	現在の状況
(1) 市中での感染拡大状況	①新規陽性者における感染経路不明者7日間移動平均前週増加比	①2以上かつ ②10人以上	—	—	—	0.60	0.64	0.71	0.72	0.69	0.71	0.72	1/17以降1を下回り、減少
	②新規陽性者における感染経路不明者数7日間移動平均		—	—	10人未満	62.29	61.43	62.71	61.71	55.57	54.14	51.86	1/11をピークに減少
	【参考①】新規陽性者における感染経路不明者の割合	—	—	—	—	39.3%	59.2%	56.1%	46.4%	41.8%	45.1%	69.7%	概ね40～50%台で推移
(2) 新規陽性患者の拡大状況	③7日間合計新規陽性者数	120人以上かつ 後半3日間で半数以上	—	—	—	936	890	871	821	764	770	718	1/12以降、減少
	うち後半3日間		357	372	329	309	265	300	320				
	④直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数	—	—	—	0.5人未満	10.62	10.10	9.88	9.31	8.67	8.74	8.15	1/12以降、減少
	【参考②】陽性率（7日間）	—	—	—	—	2.7%	2.6%	2.5%	2.3%	2.1%	2.1%	1.9%	2/12以降、2%台
(3) 病床等の逼迫状況	⑤患者受入重症病床使用率(※)		70%以上 （「警戒（黄色）」信号が点灯した日から起算して25日以内）	7日間連続 60%未満	60%未満	61.0%	58.1%	59.3%	64.3%	60.2%	52.5%	49.8%	2/17に60%を下回った
	【参考③】患者受入軽症中等症病床使用率	—	—	—	—	47.1%	42.3%	42.7%	43.7%	39.1%	38.6%	36.6%	2/16以降、30%台
	【参考④】患者受入宿泊療養施設部屋数使用率	—	—	—	—	14.0%	14.1%	13.7%	13.0%	11.4%	10.6%	10.7%	2/8以降、10%台

重症病床使用率（非常事態（赤色）解除の指標）は、2月17日に6割を下回った。

(参考) 新型コロナウイルス感染症対策分科会におけるモニタリング指標の状況

【緊急事態措置解除の考え方】 ※「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針（令和3年1月7日変更）」より
国内での感染及び医療提供体制・公衆衛生体制のひっ迫状況（特に、緊急事態措置を実施すべき区域が、分科会提言におけるステージⅢ相当の対策が必要な地域になっているか等）を踏まえて、総合的に判断。

		指標	目安	1/7 ※1	2/8 ※2	2/18	2/18時点の 目安に対する状況	ステージⅣ基準を 下回った日	(参考) ステージⅢ 目安	2/18時点の 目安に対する状況		
ステージⅣ	医療提供体制等の負荷	①病床のひっ迫 具合	病床全体	最大確保病床の占有率	50%以上	63.2% (1,021/1,615)	58.0% (1,129/1,946)	38.1% (747/1,962)	○	2/10～	20%以上	●
				現時点の確保病床数の占有率	—	64.9% (1,021/1,572)	58.0% (1,129/1,946)	38.1% (747/1,962)	—	—	25%以上	●
		うち、重症者用 病床	最大確保病床の占有率	50%以上	69.8% (277/397)	56.6% (239/422)	44.3% (180/406)	○	2/13～14 2/17～	20%以上	●	
			現時点の確保病床数の占有率	—	69.8% (277/397)	56.6% (239/422)	44.3% (180/406)	—	—	25%以上	●	
		②人口10万人あたり療養者数	25人以上	50.67	37.41	16.73	○	2/13～	15人以上	●		
	監視体制	③陽性率 1週間平均	10%未満	7.7%	3.7%	1.9%	○	11/30～	ステージⅣと同基準	○		
	感染の状況	④週・人口10万人あたり新規報告数	25人以上	29.72	14.69	8.15	○	2/1～	15人以上	○		
		⑤直近一週間と先週一週間の比較	1未満	1.38 (2,620/1,898)	0.60 (1,295/2,173)	0.68 (718/1,056)	○	1/17～	ステージⅣと同基準	○		
		⑥感染経路不明割合 1週間平均	50%未満	55.1%	46.3%	50.6%	●	1/24～2/13 2/17	ステージⅣと同基準	●		

※1：緊急事態宣言要請を決定した第34回対策本部会議（1/8）に示した数値 ※2：緊急事態宣言解除要請について審議した第37回対策本部会議（2/9）に示した数値
病床確保計画に定める「最大確保病床」（病床全体：1,615床、重症：215床）を「現時点の確保病床」が上回る場合は、「現時点の確保病床数」に読み替える。

●：基準外 ○：基準内

2/17時点でいずれの指標もステージⅣの基準を下回ったが、18日に感染経路不明割合のみ基準をやや超過。
また、医療提供体制等の負荷の指標以外はステージⅢの基準も下回っている。

推定感染日別陽性者数（2月17日時点）

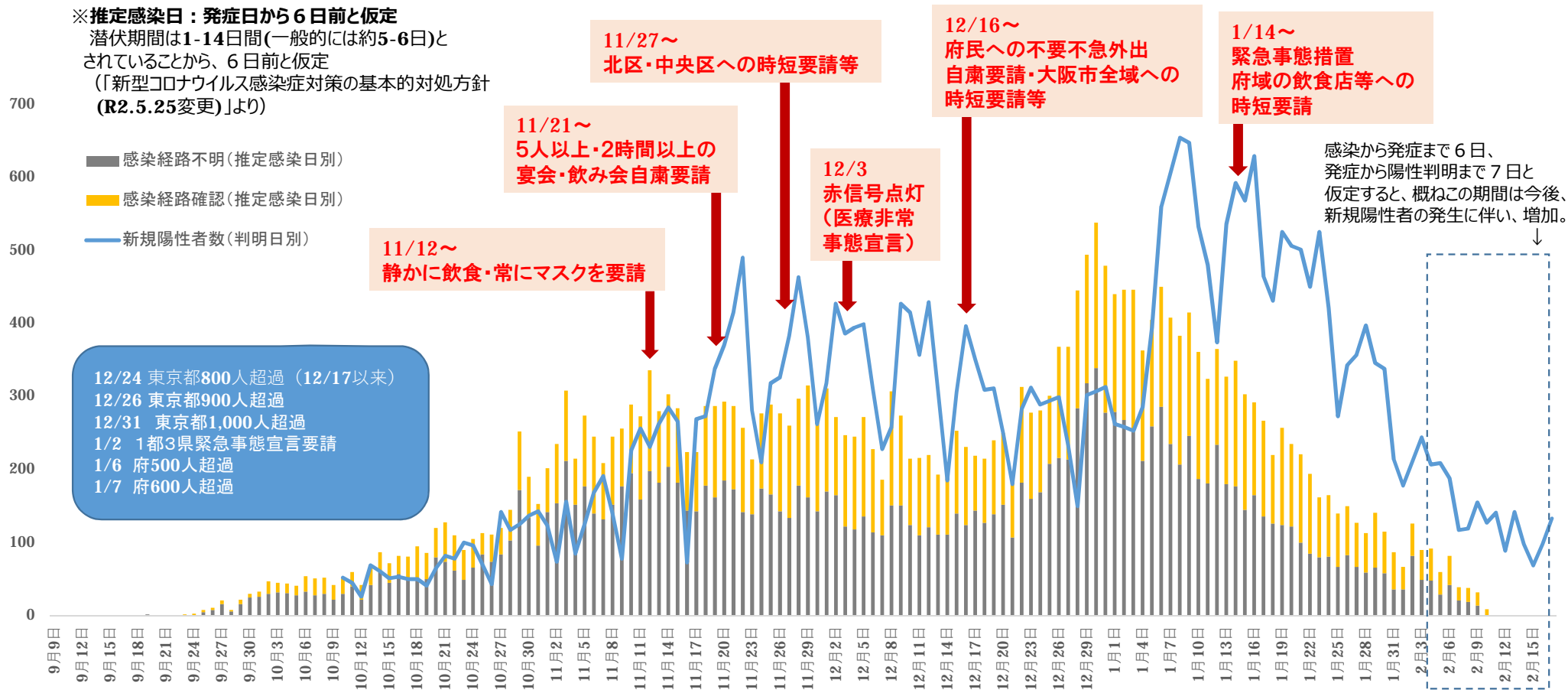
◆ 12月30日をピークに減少に転じ、1月14日以降の緊急事態措置により急減。

（10月10日以降2月17日までの判明日分）（N=29,050名（調査中、不明、無症状6,140名を除く））

※推定感染日：発症日から6日前と仮定

潜伏期間は1-14日間（一般的には約5-6日）とされていることから、6日前と仮定
（「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針（R2.5.25変更）」より）

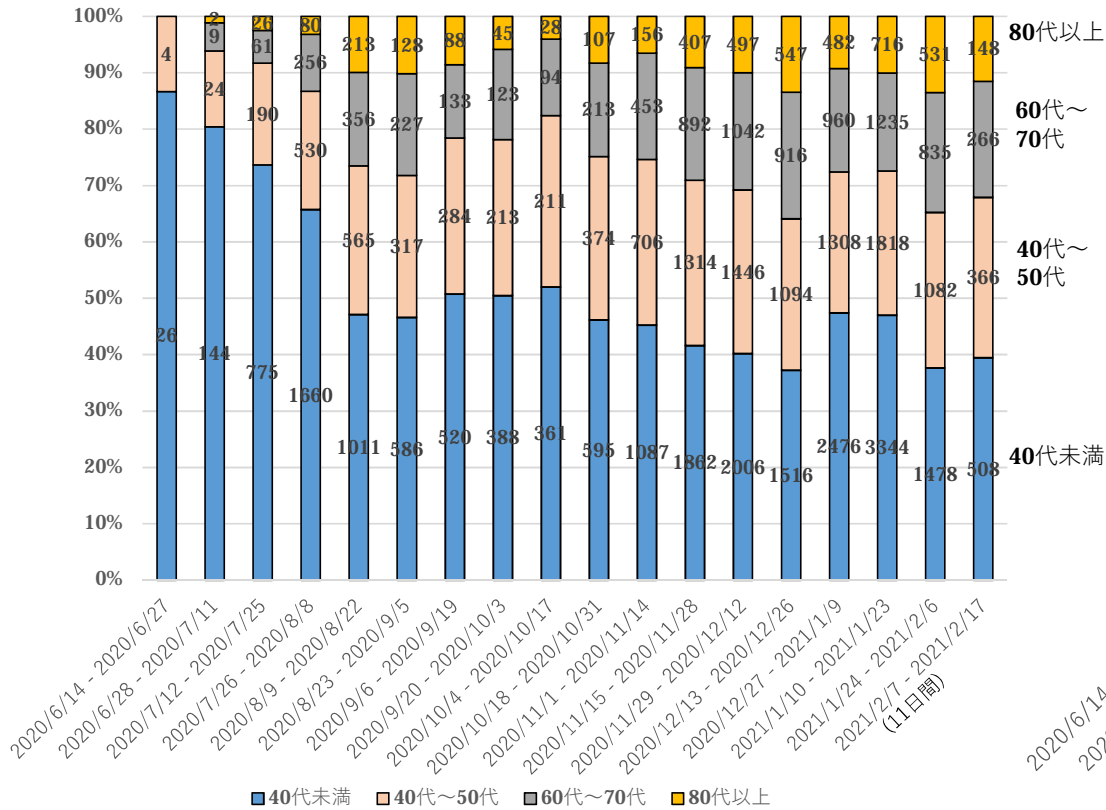
陽性者数



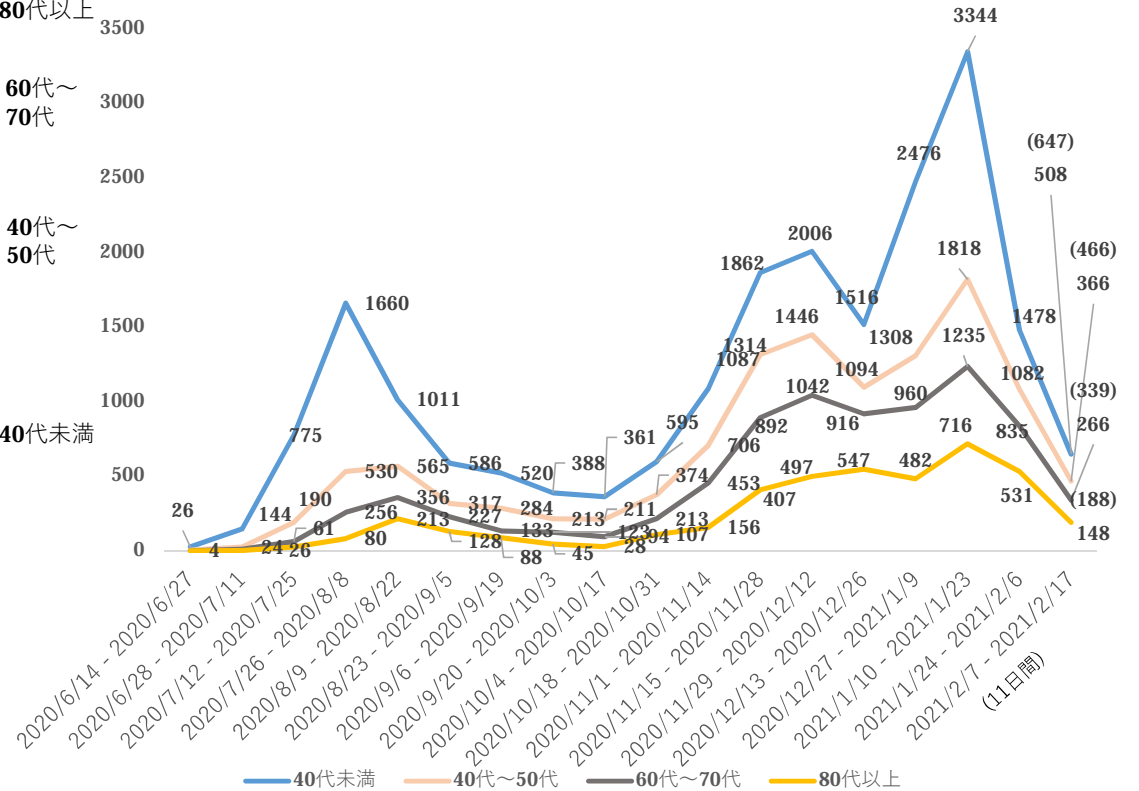
陽性者の年齢区分

(6月14日以降2月17日までに判明した44,461事例の状況)

陽性者の年齢区分 (割合, 2週間単位)



陽性者の年齢区分 (実数, 2週間単位)



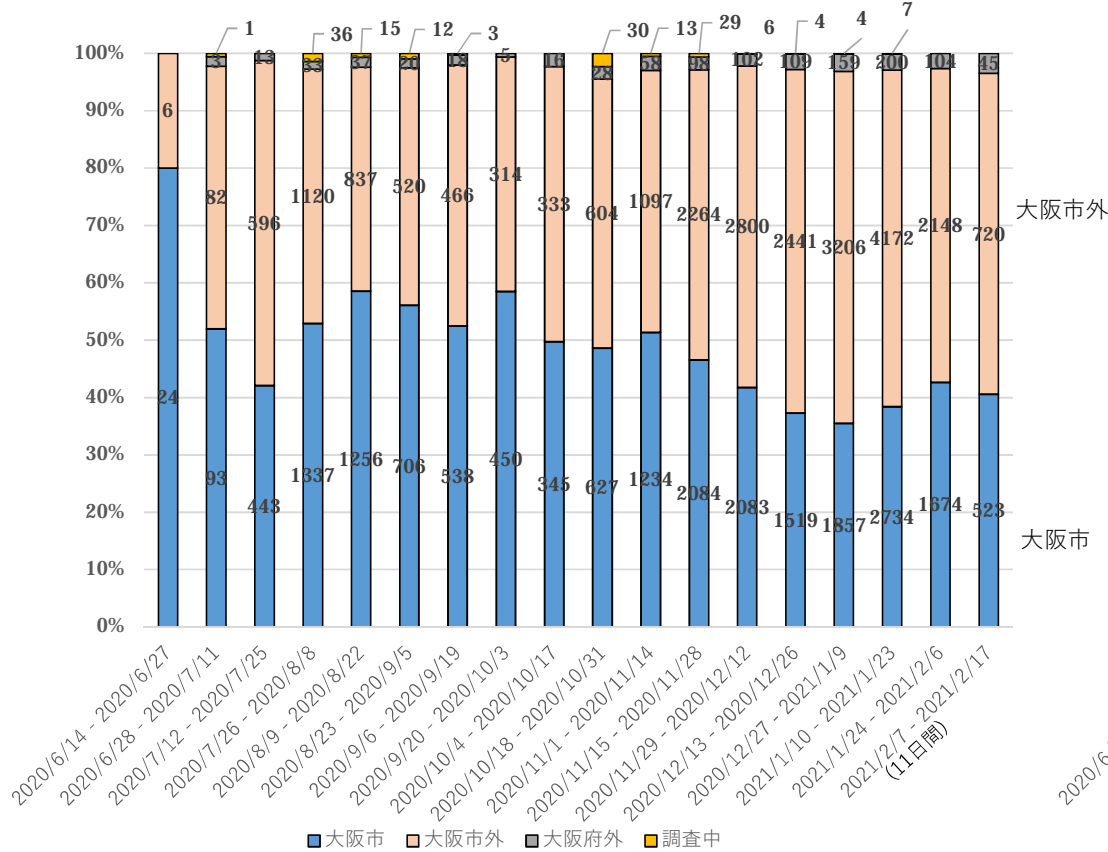
直近11日間における40代未満の割合は4割と、やや増加。60代以上の割合は3割強と、やや減少。

※カッコ書きは、14日間の推定値
※グラフは推定値で作成

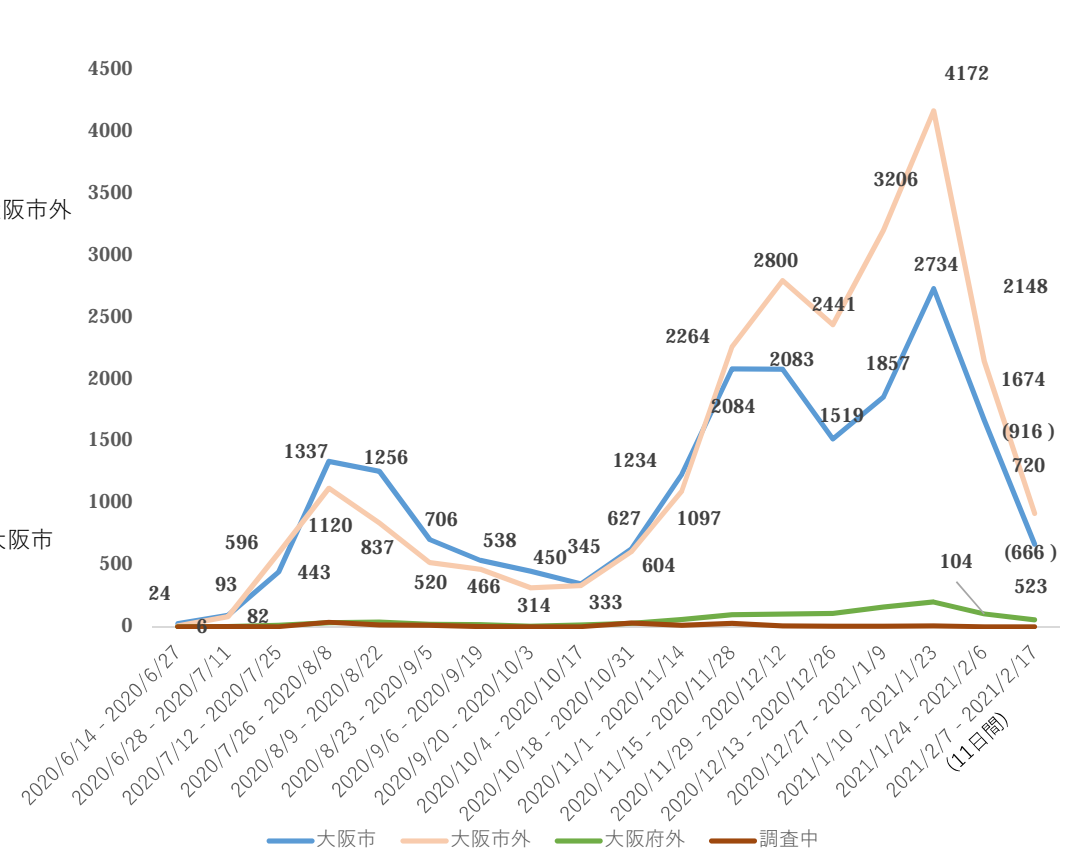
陽性者の居住地

(6月14日以降2月17日までに判明した44,461事例の状況)

陽性者の居住地区分 (割合, 2週間単位)



陽性者の居住地区分 (実数, 2週間単位)

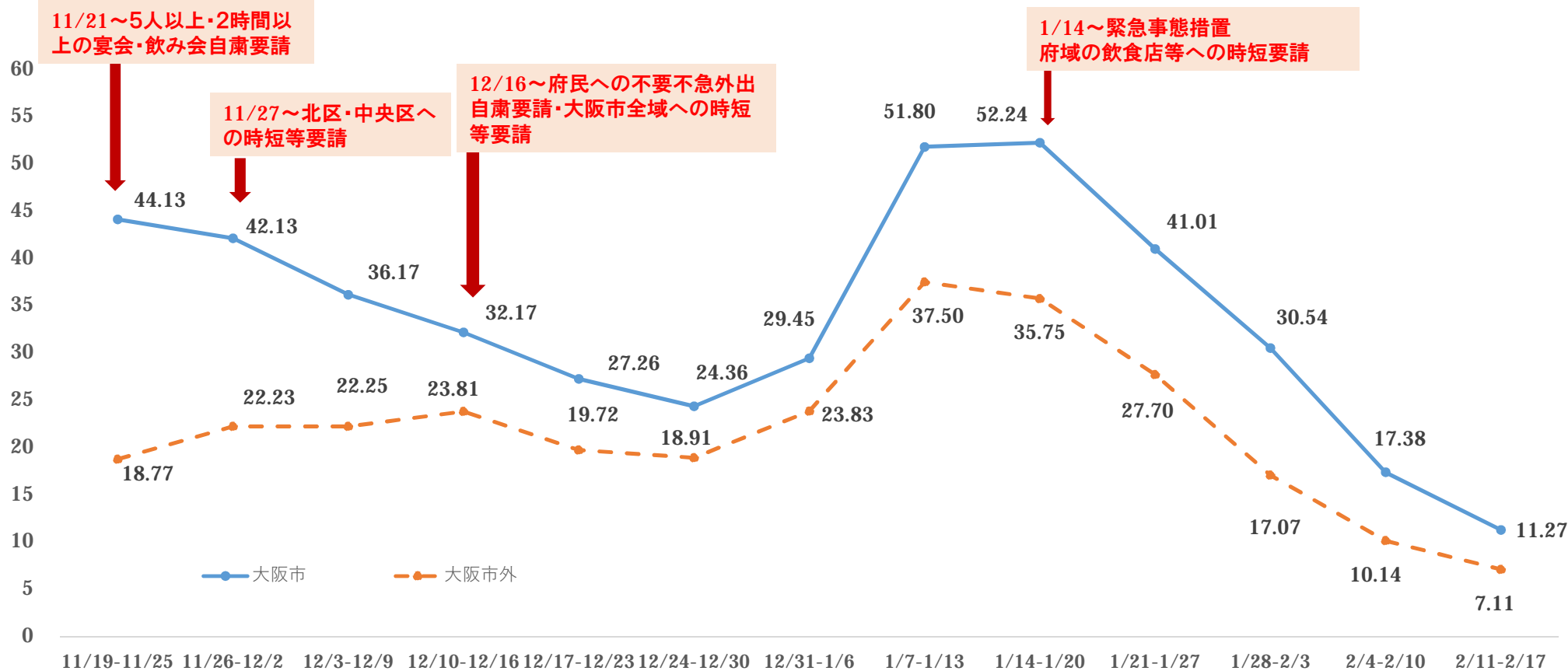


直近11日間における、大阪市内居住者の割合は約4割。

※カッコ書きは、14日間の推定値
※グラフは推定値で作成

大阪市・市外の陽性者比較（人口10万人あたり）

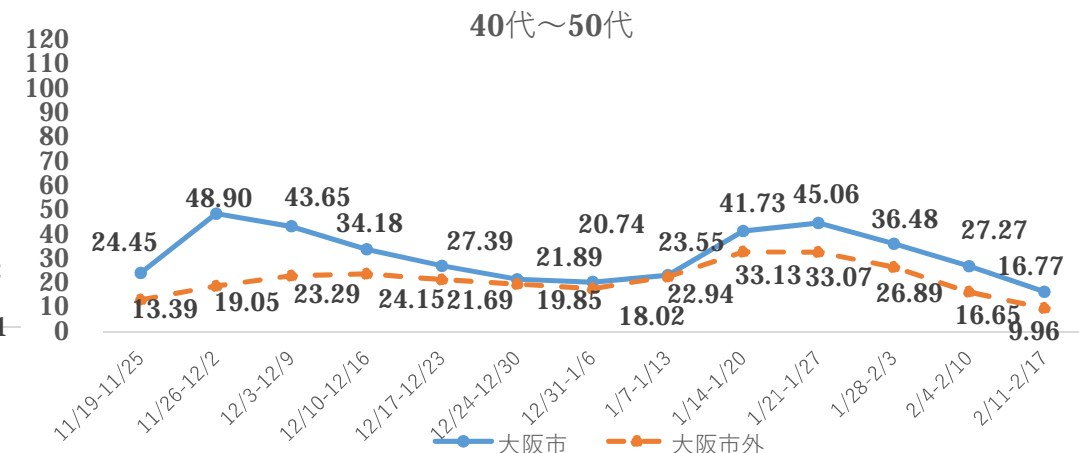
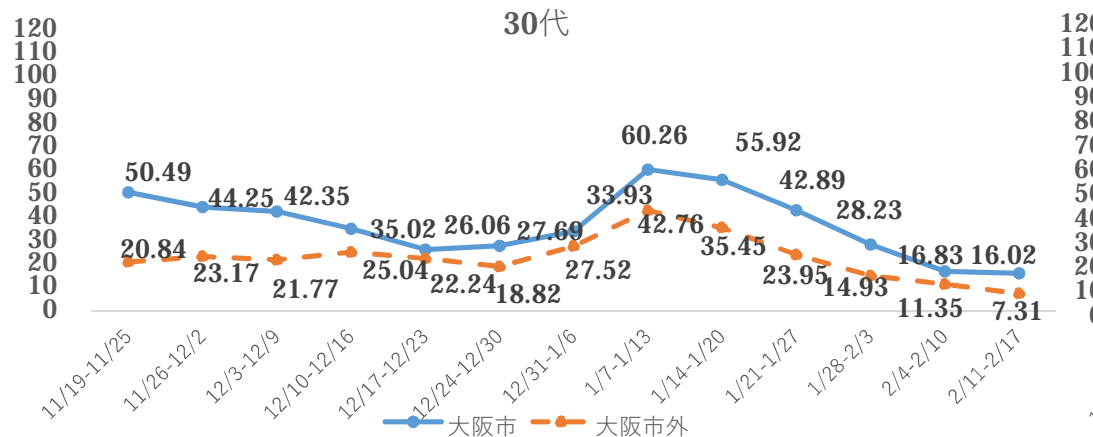
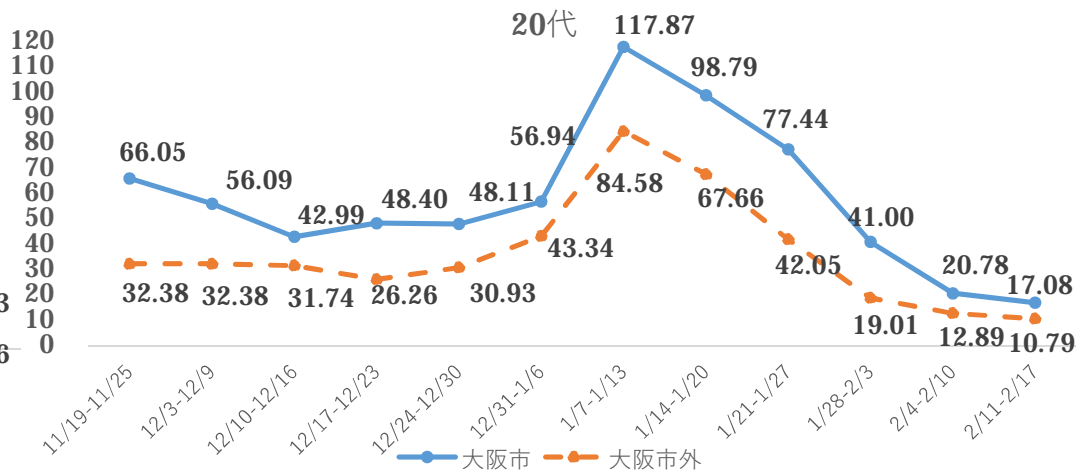
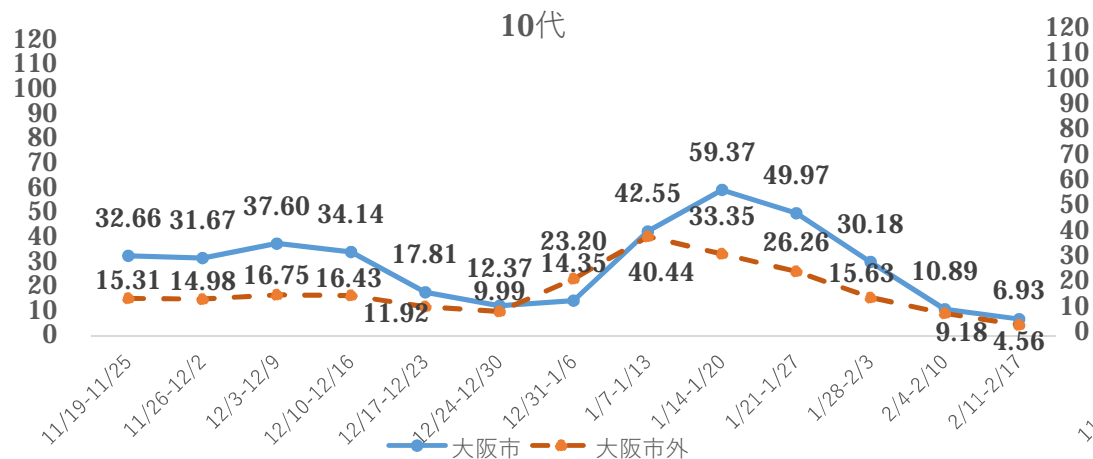
※市内外は居住地による
 ※居住地が非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く



1月14日以降の府域への時短要請以降、大阪市内・市外いずれも減少。

大阪市・市外 年代別陽性者比較 (人口10万人あたり)

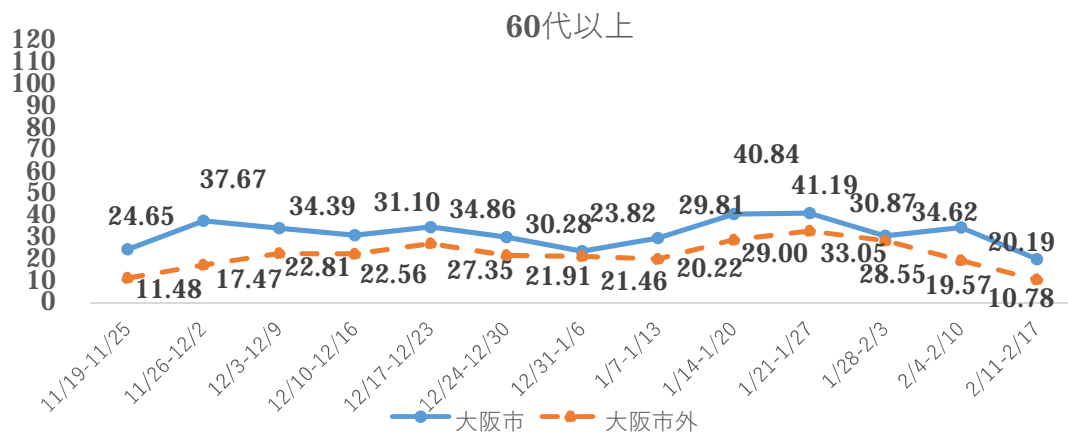
※市内外は居住地による
※居住地が非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く



市内・市外にかかわらず、全年代で1月中下旬以降の人口10万人あたりの新規陽性者は減少。

大阪市・市外 年代別陽性者比較（人口10万人あたり）

※市内外は居住地による
 ※居住地が非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く



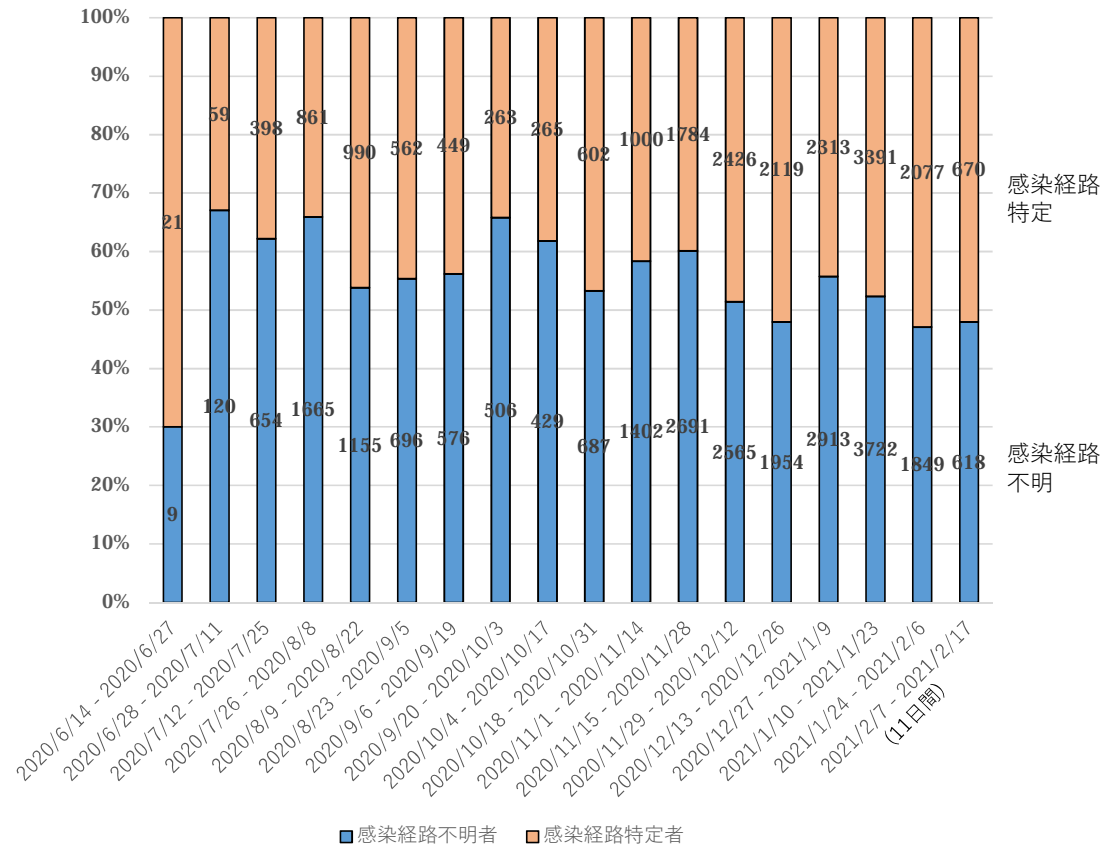
直近1週間で、市内・市外ともに人口10万人あたりの新規陽性者は減少。

陽性者の感染経路の状況

U 1月下旬以降感染経路不明の割合が5割を下回っているが、直近11日間でやや増加。

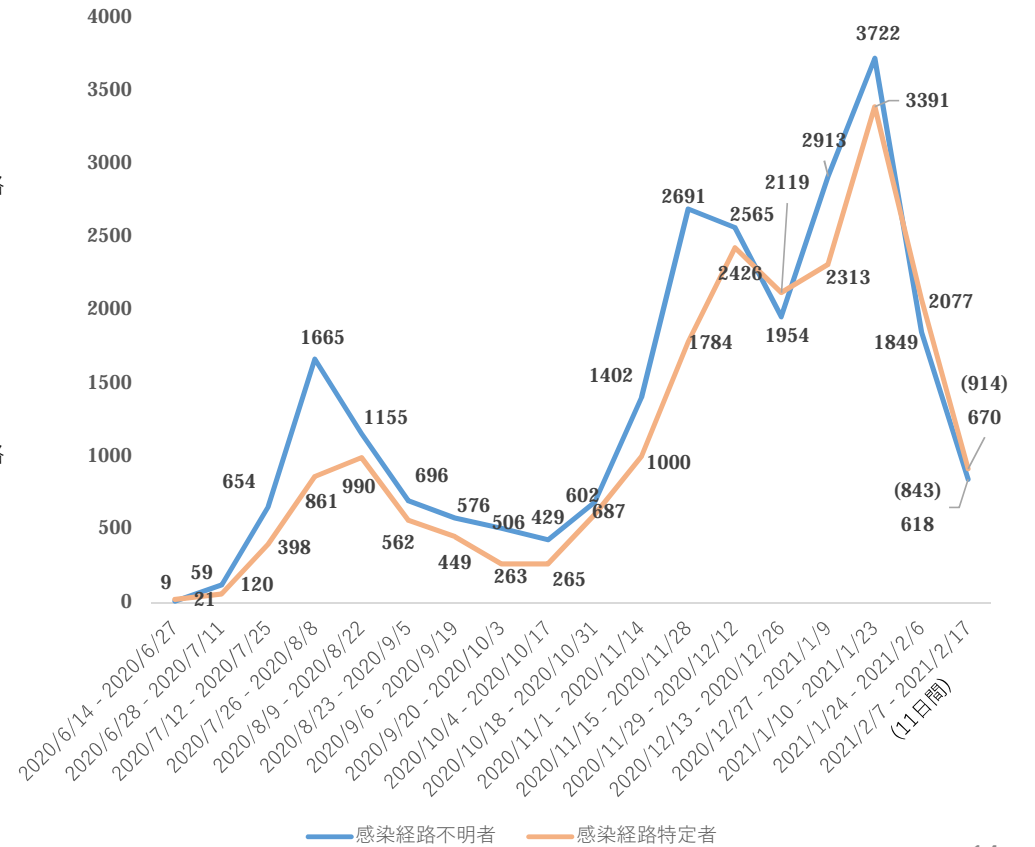
(6月14日以降2月17日までに判明した44,461事例の状況)

感染経路の状況 (割合)



感染経路の状況 (実数)

※カッコ書きは、14日間の推定値
※グラフは推定値で作成

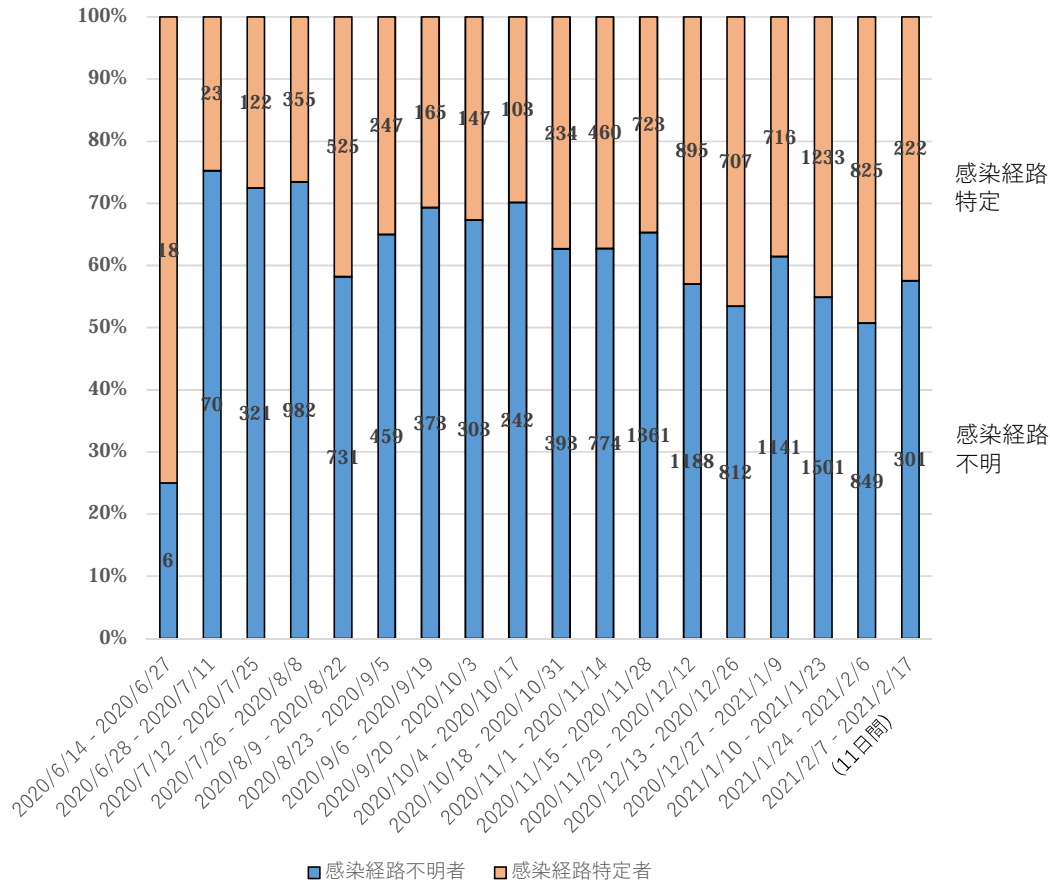


陽性者の感染経路の状況（大阪市内外）

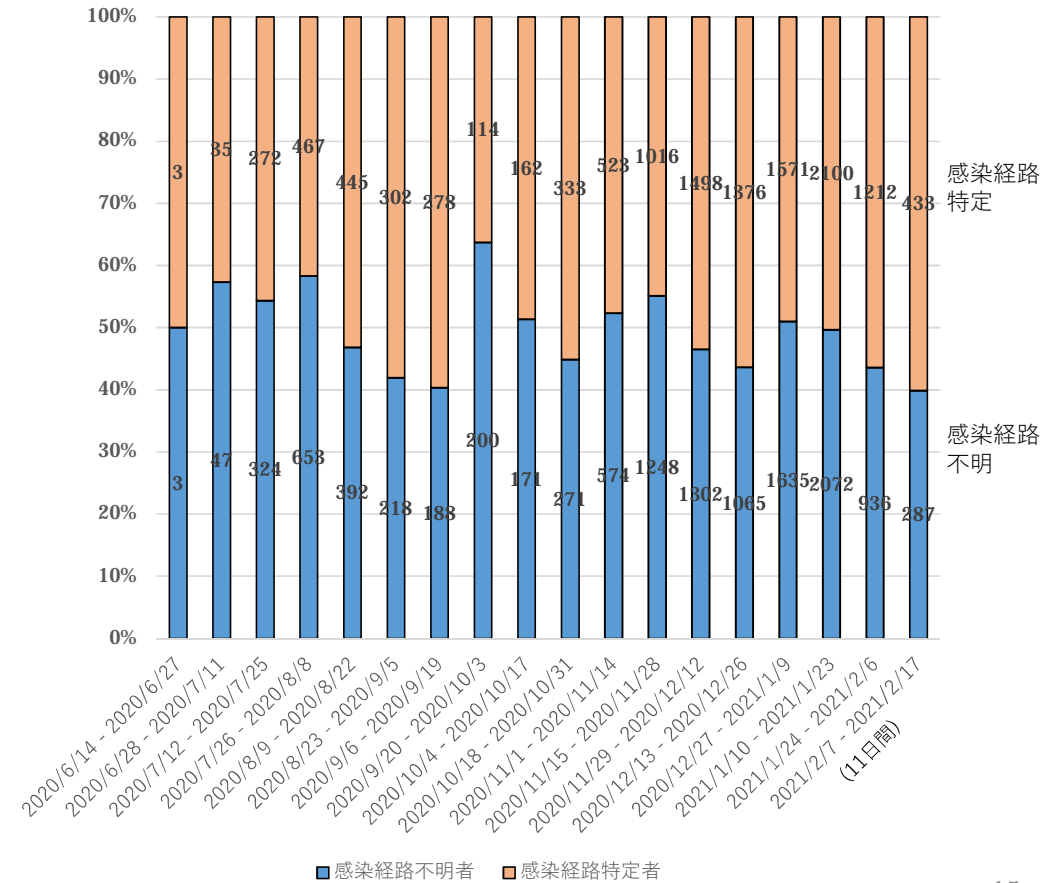
※市内外は居住地による
 ※居住地が非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く

◆ 1月以降、感染経路不明の割合は市内・市外居住者ともに減少していたが、市内では直近11日間で増加。市外では直近11日間で4割程度まで減少。

感染経路の状況（大阪市内）

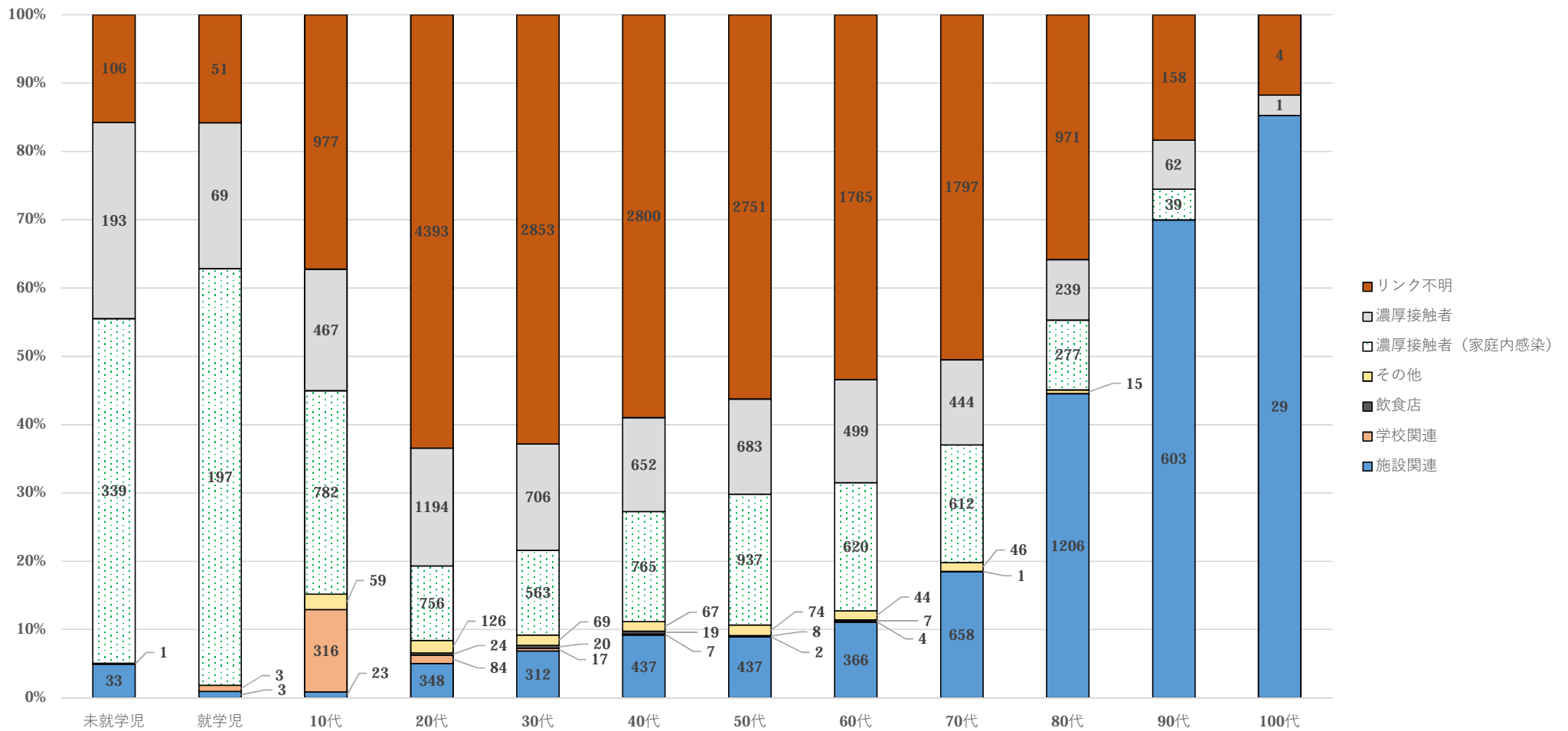


感染経路の状況（大阪市外）



年代別感染経路（第三波）

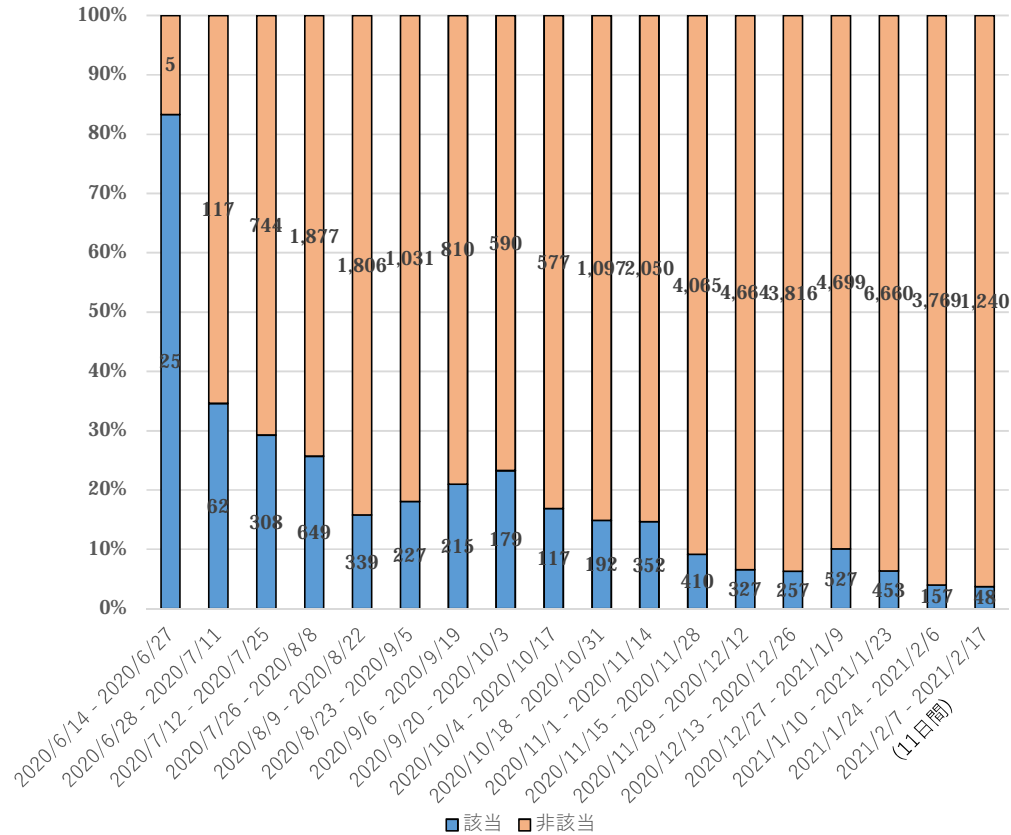
（10月10日以降2月17日までに判明した35,190事例の状況）



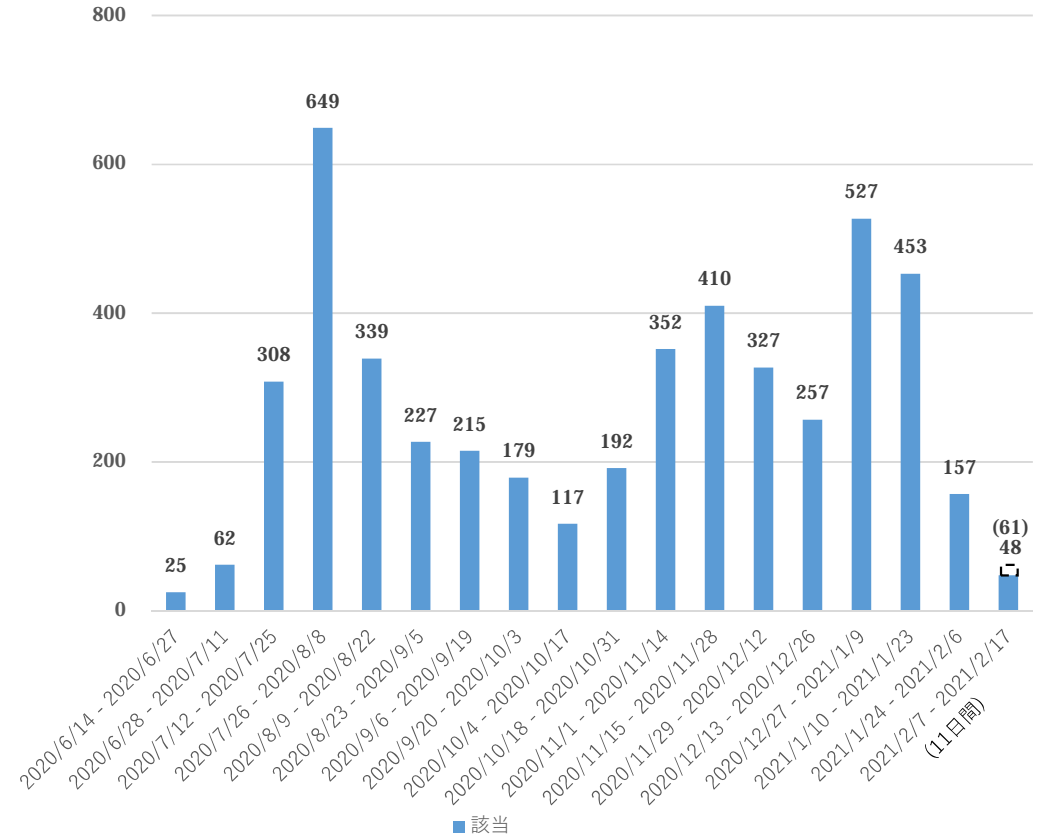
夜の街の関係者及び滞在者の状況（陽性者全体における該当者）

（6月14日以降2月17日までに判明した44,461事例の状況）

夜の街の関係者及び滞在者の状況（全件：割合）



夜の街の関係者及び滞在者の状況（全件：実数）



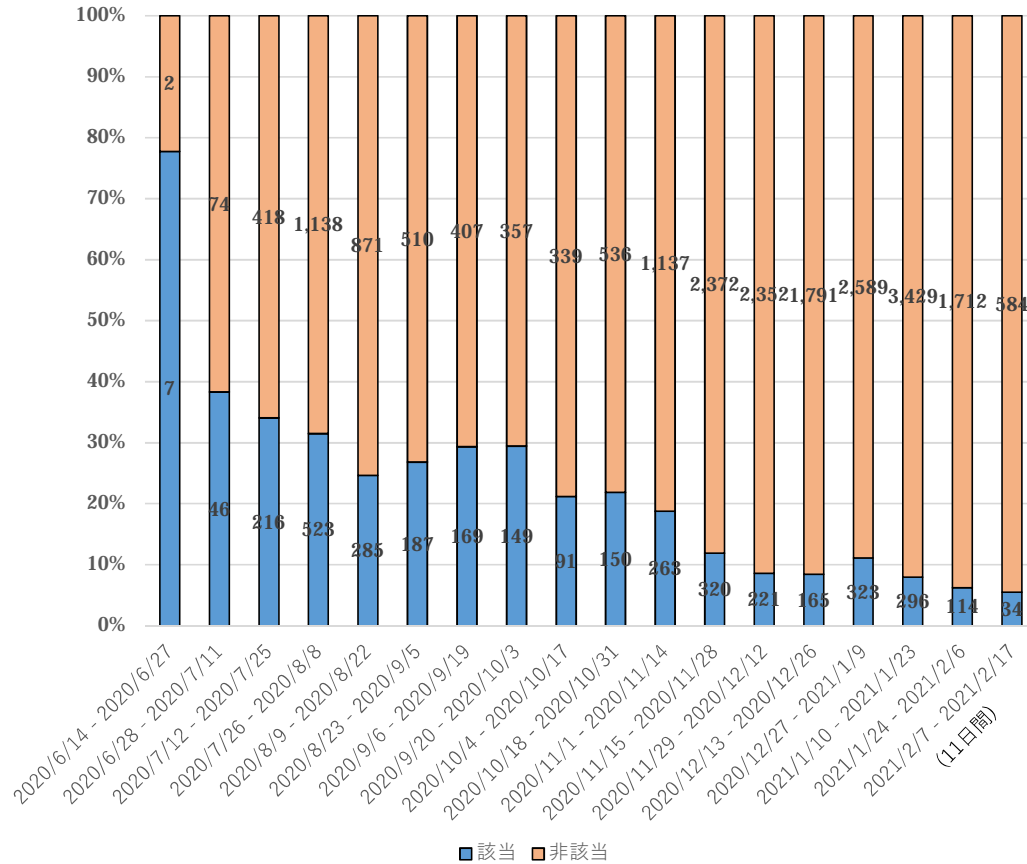
※該当・非該当は本人からの聞き取り情報による

夜の街の関係者及び滞在者の割合・人数は、緊急事態宣言発出後、減少している。

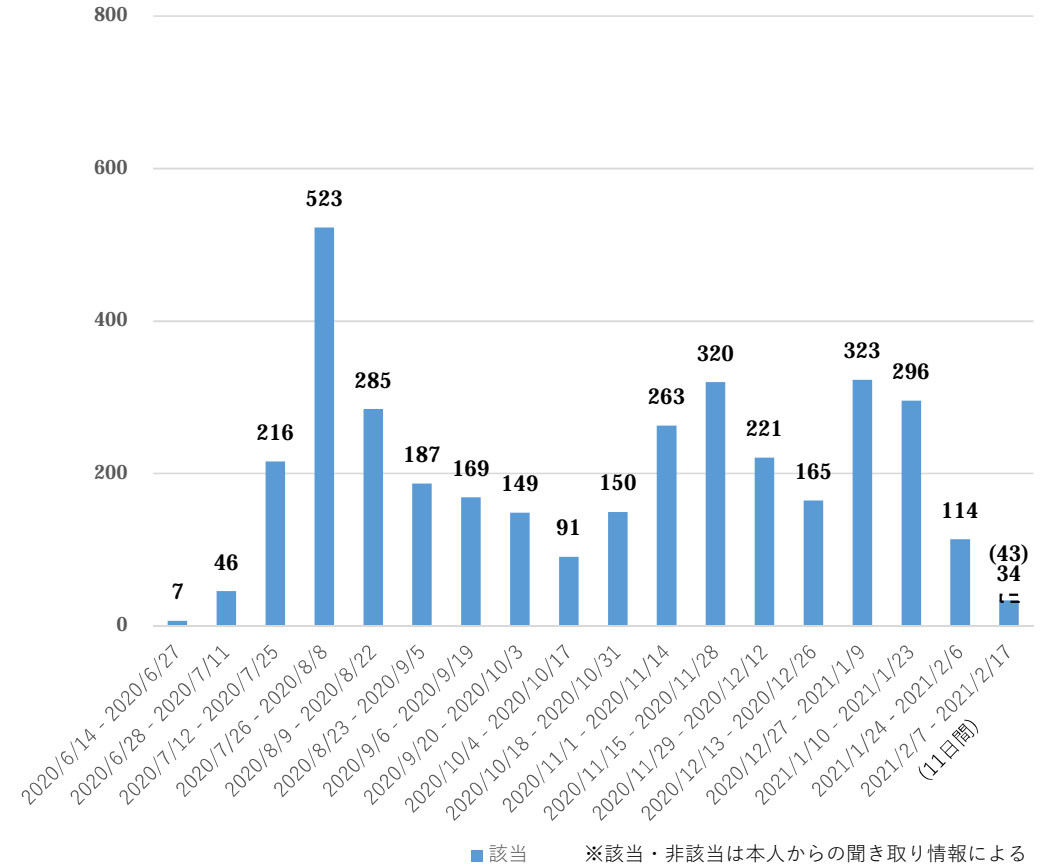
夜の街の関係者及び滞在者の状況（感染経路不明者における該当者）

（6月14日以降2月17日までに判明した感染経路不明者24,177事例の状況）

夜の街の関係者及び滞在者の状況（感染経路不明：割合）



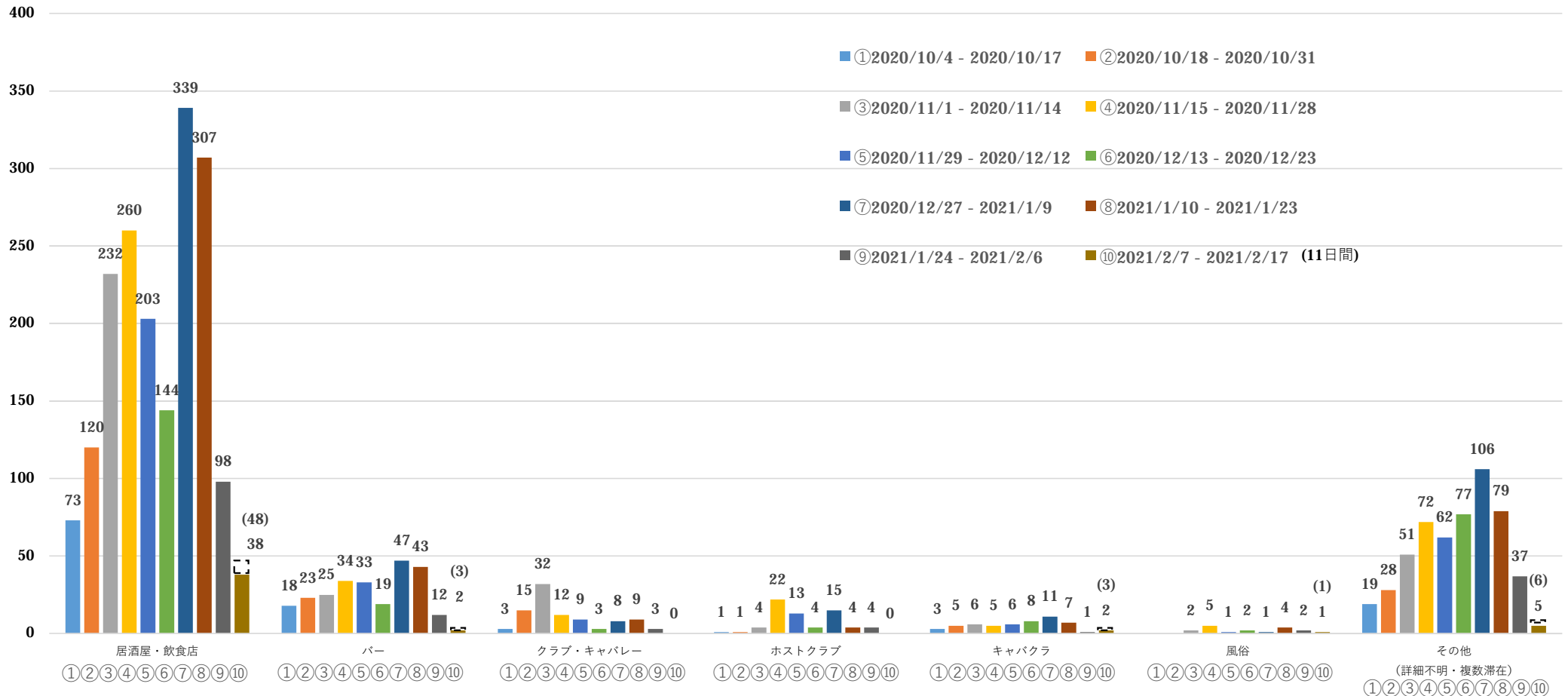
夜の街の関係者及び滞在者の状況（感染経路不明：実数）



※該当・非該当は本人からの聞き取り情報による

夜の街の滞在分類別の状況

(10月4日以降2月17日までに判明した2,840事例の状況)

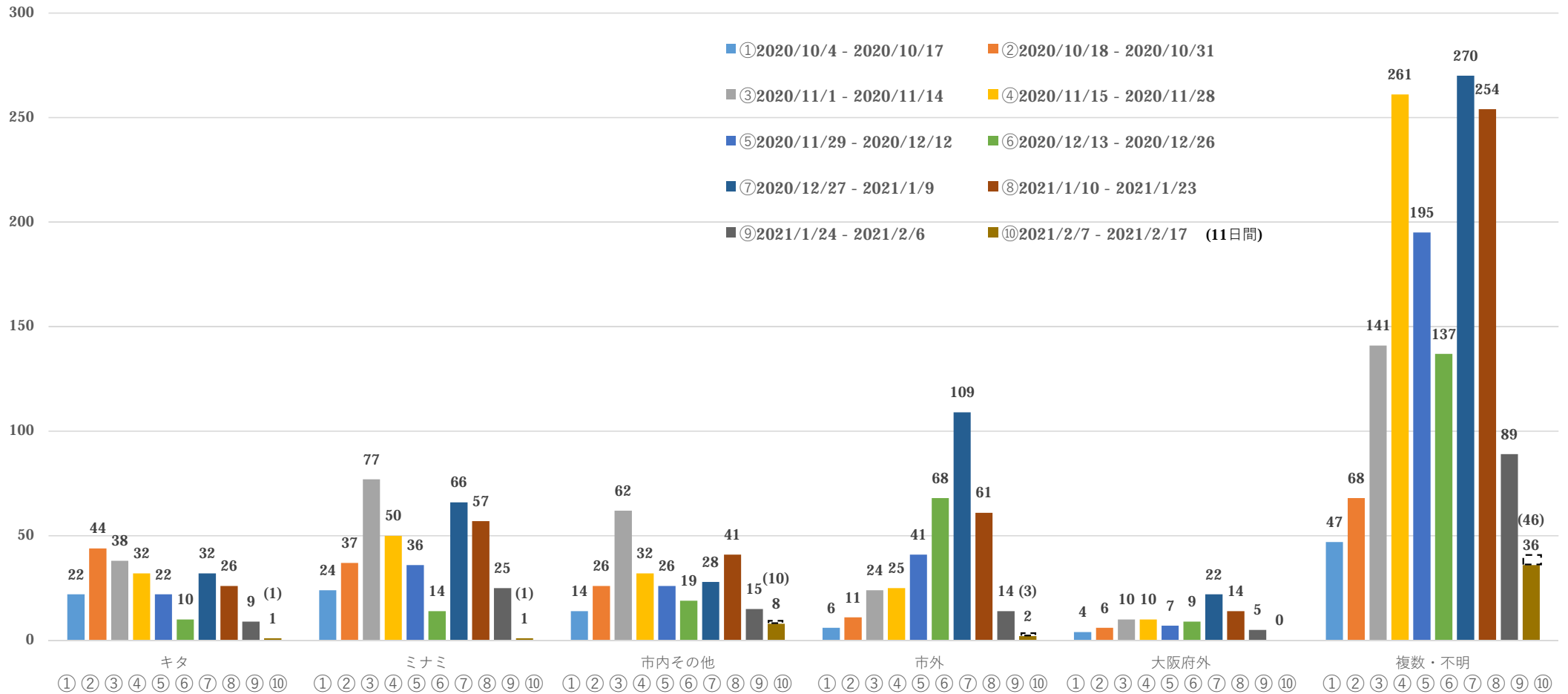


居酒屋・飲食店及びバーは、緊急事態宣言発出後、減少している。

※滞在先の分類は本人からの聞き取り情報による

夜の街の滞在エリア別の状況

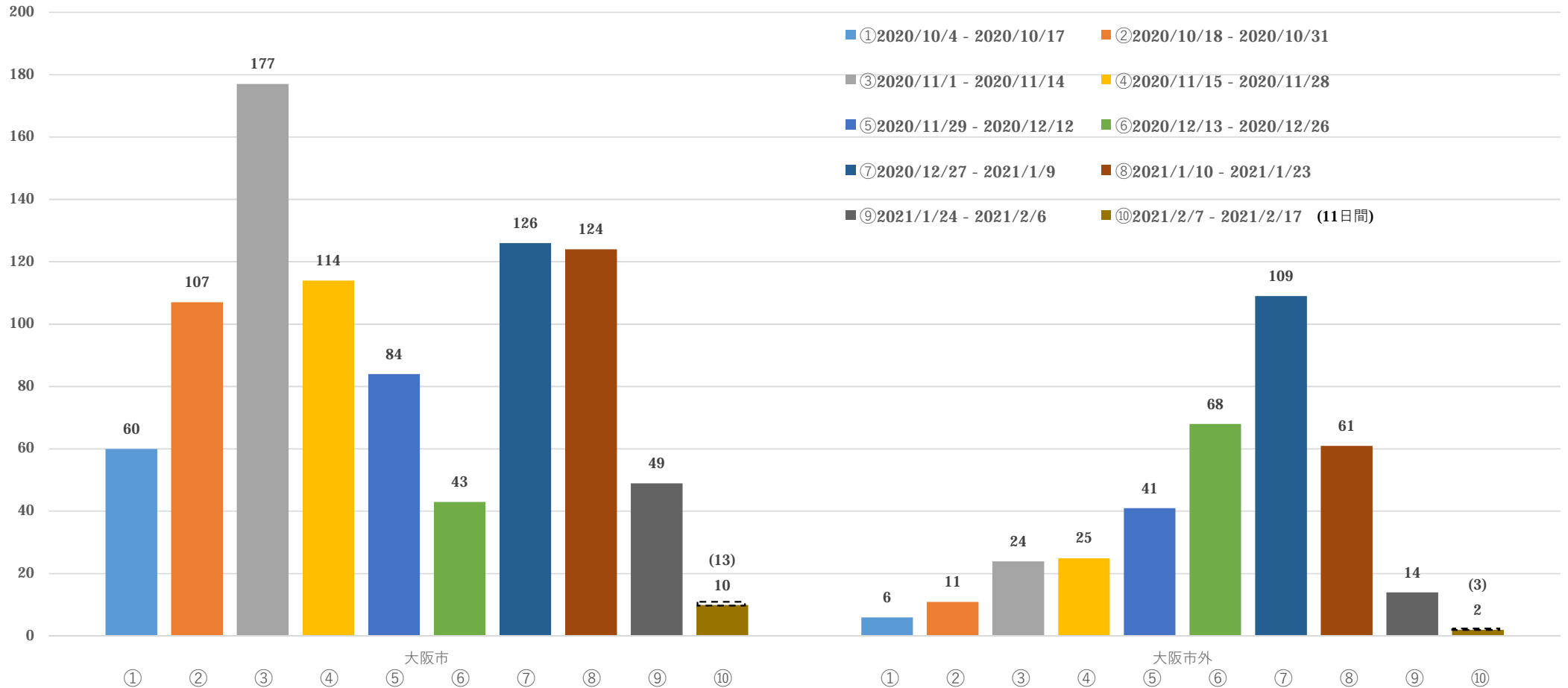
(10月4日以降2月17日までに判明した2,840事例の状況)



※滞在エリアの分類は本人からの聞き取り情報による 20

夜の街の滞在エリア別の状況

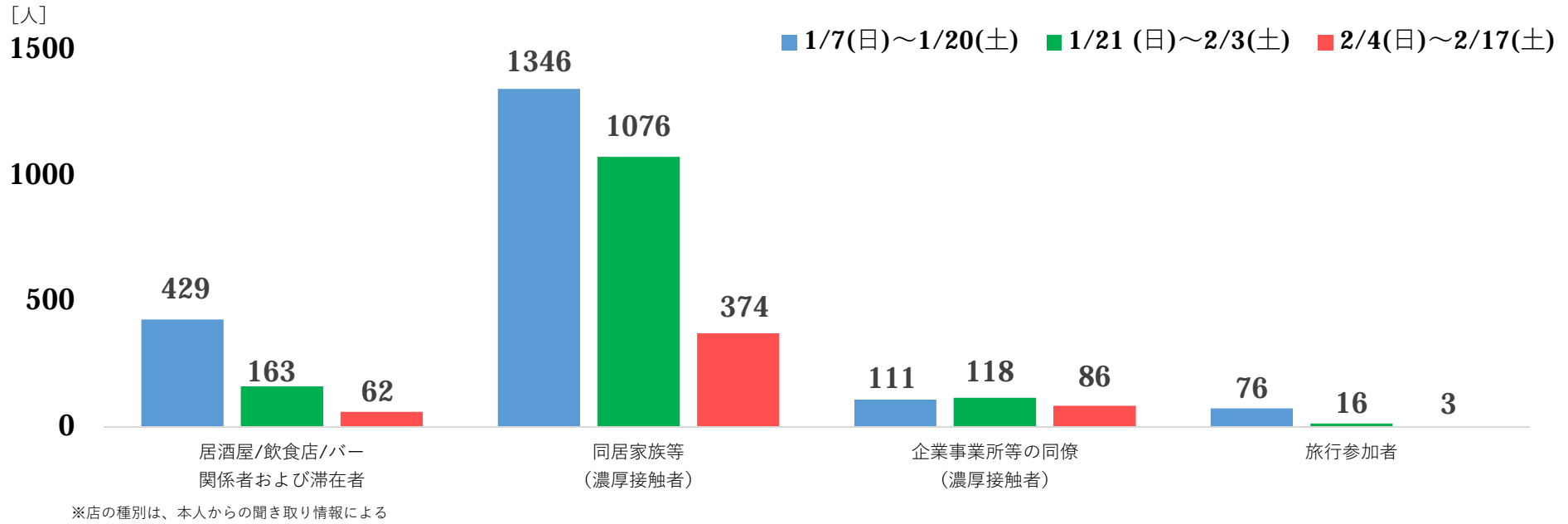
(10月4日以降2月17日までに判明した2,840事例の状況)



※滞在エリアの分類は本人からの聞き取り情報による 21

状況別の陽性者

● 状況別の陽性者



【全陽性者に占める割合】

状況	1/7-1/20	1/21-2/3	2/4-2/17
居酒屋/飲食店/バー関係者および滞在者	5.7%	3.4%	3.3%
同居家族等(濃厚接触者)	17.8%	22.4%	19.8%
企業事業所等の同僚(濃厚接触者)	1.5%	2.5%	4.5%
旅行参加者	1.0%	0.3%	0.2%

※全陽性者数：1/7-1/20 7,545名 1/21-2/3 4,798名 2/4-2/17 1,892名

クラスターの発生状況

第一波のクラスターの発生状況
(1月29日以降6月13日まで)

	発表名称	件数	陽性者数	陽性者数 /件数
1	ライブ参加者	4 施設	48	12.0
2	大学の関係者	1 大学	8	8.0
3	医療機関関連	6 機関	284	47.3
計			340	

第二波のクラスターの発生状況
(6月14日以降10月9日まで)

	発表名称	件数	陽性者数	陽性者数 /件数
1	飲食店関連	5 店	45	9.0
2	大学・学校関連	3 校	48	16.0
3	医療機関関連	10機関	295	29.5
4	高齢者施設・障がい者施設関連	23施設	389	16.9
5	その他	4件	63	15.8
計			840	

第三波のクラスターの発生状況
(10月10日以降2月18日まで)

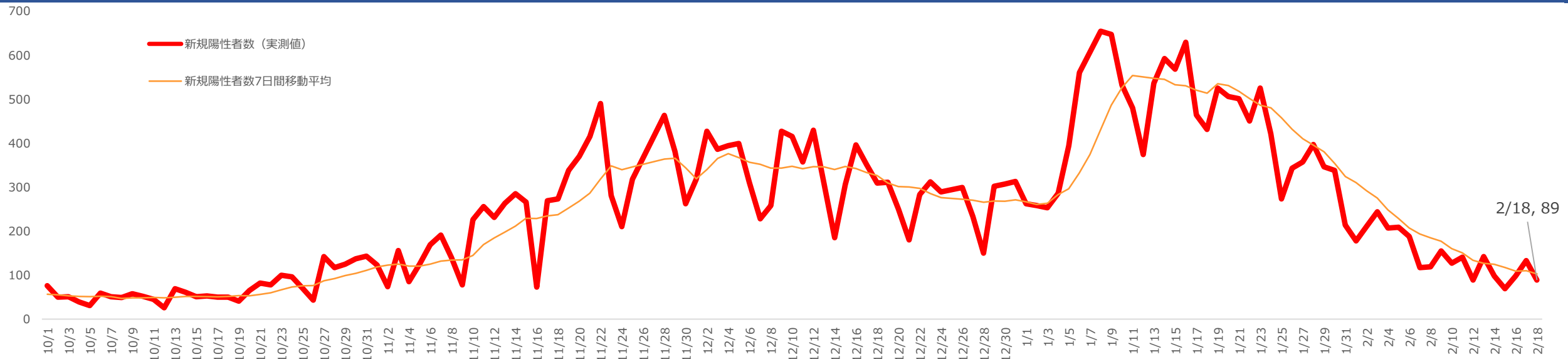
	発表名称	件数	陽性者数	陽性者数 /件数
1	飲食店関連	8店	82	10.3
2	大学・学校関連	30校	439	14.6
3	医療機関関連	60機関	2,026	33.8
4	高齢者施設・障がい者施設関連	130施設	2,387	18.4
5	その他	56件	568	10.1
計			5,502	

クラスターにおける陽性者数の割合

	第一波	第二波	第三波
クラスターにおける陽性者数	340	840	5,502
全陽性者数	1,786	9,271	35,279
割合	19.0%	9.1%	15.6%

新規陽性者数と入院・療養者数（2月18日時点）

資料 1 - 2

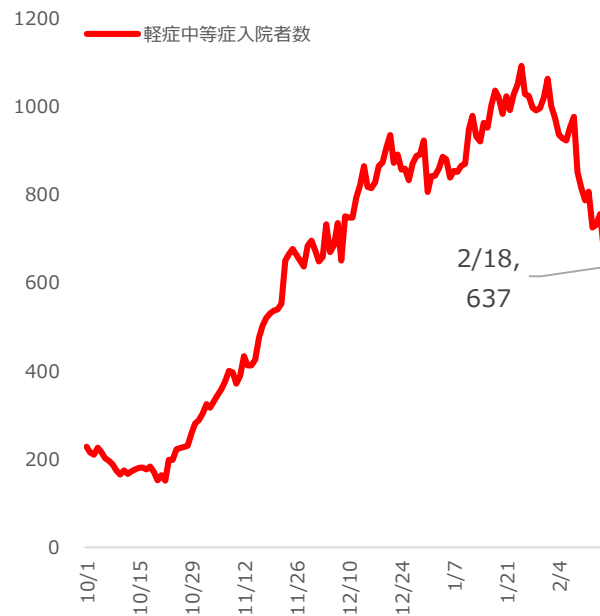
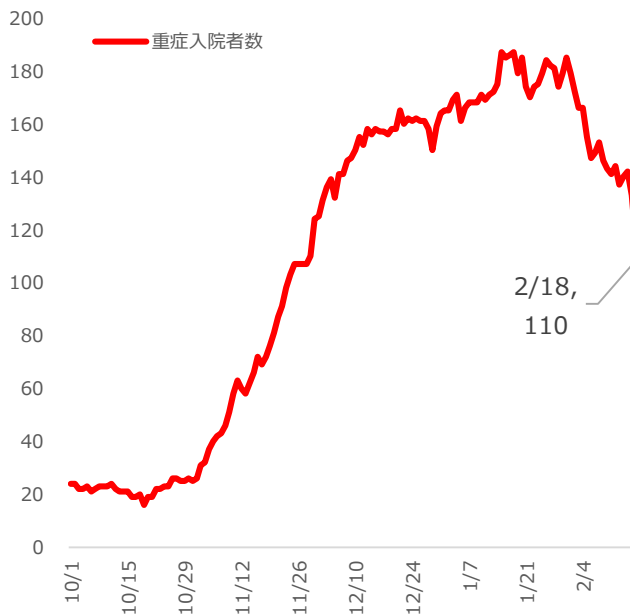


入院患者（重症）

入院患者（軽症中等症）

宿泊療養者

自宅療養者



入院・療養状況(2月18日時点)

		重症病床	軽症中等症病床	宿泊療養施設
確保計画	フェーズ1	60床	500床	400室
	フェーズ2	80床	800床	800室
	フェーズ3	150床	1,000床	1,036室
	フェーズ4	215床	1,400床	—
確保数等 ※重症病床、軽症中等症病床について、 11月19日からフェーズ4へ移行		確保数221床	確保数1,741床	2,416室
入院・療養者数 (別途、自宅療養 975人)		110人	637人	258人
(使用率：入院・療養者数 ／確保病床・室数)		49.8% (110 / 221)	36.6% (637 / 1,741)	10.7% (258 / 2,416)
(運用率：入院・療養者数 ／実運用病床・室数)		49.5% (110 / 222) うち、大阪コロナ重症センター (16 / 30)	40.1% (637 / 1,590)	10.7% (258 / 2,416)

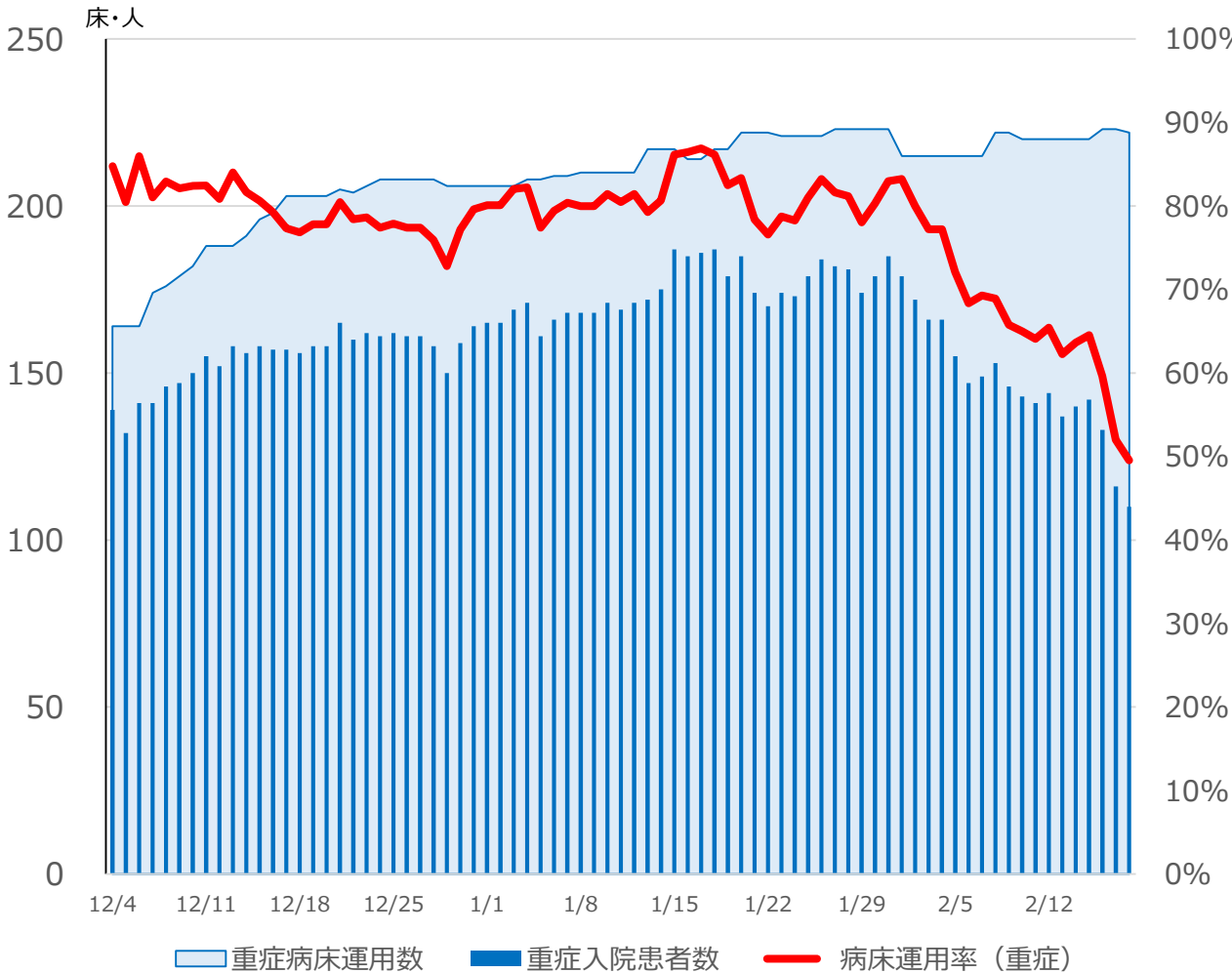
新型コロナウイルス感染症患者受入病床の確保・運用状況

● 重症病床運用状況(令和2年12月4日以降)

2月18日現在 **病床運用率49.5%**

運用病床数 **222床** (12/4時点: 164床)

入院患者数 **110人**



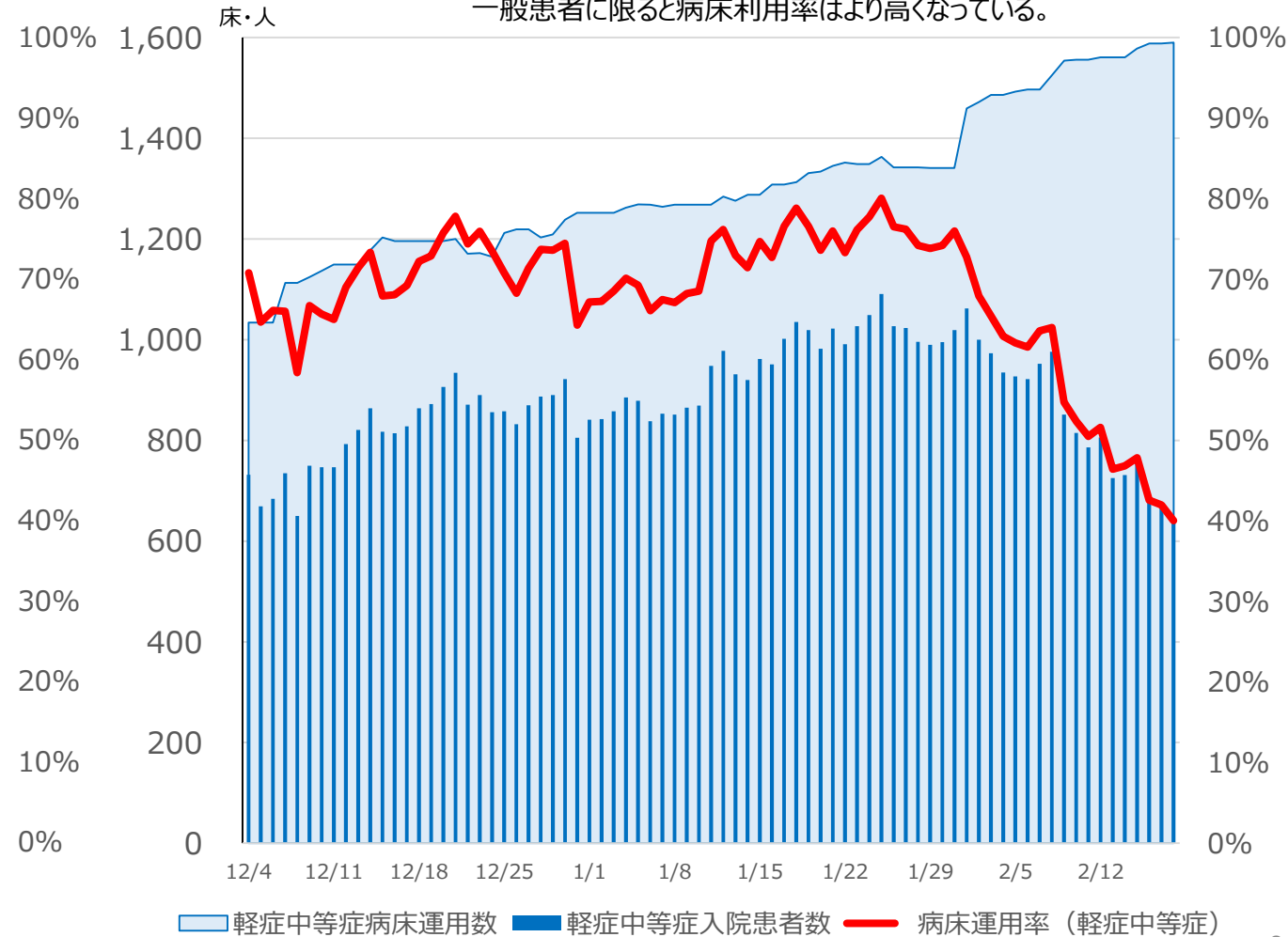
● 軽症中等症病床運用状況(令和2年12月4日以降)

2月18日現在 **病床運用率40.1%**

運用病床数 **1,590床**※ (12/4時点: 1,034床)

入院患者数 **637人**

※小児・精神患者用病床等約75床含んでおり、
一般患者に限ると病床利用率はより高くなっている。

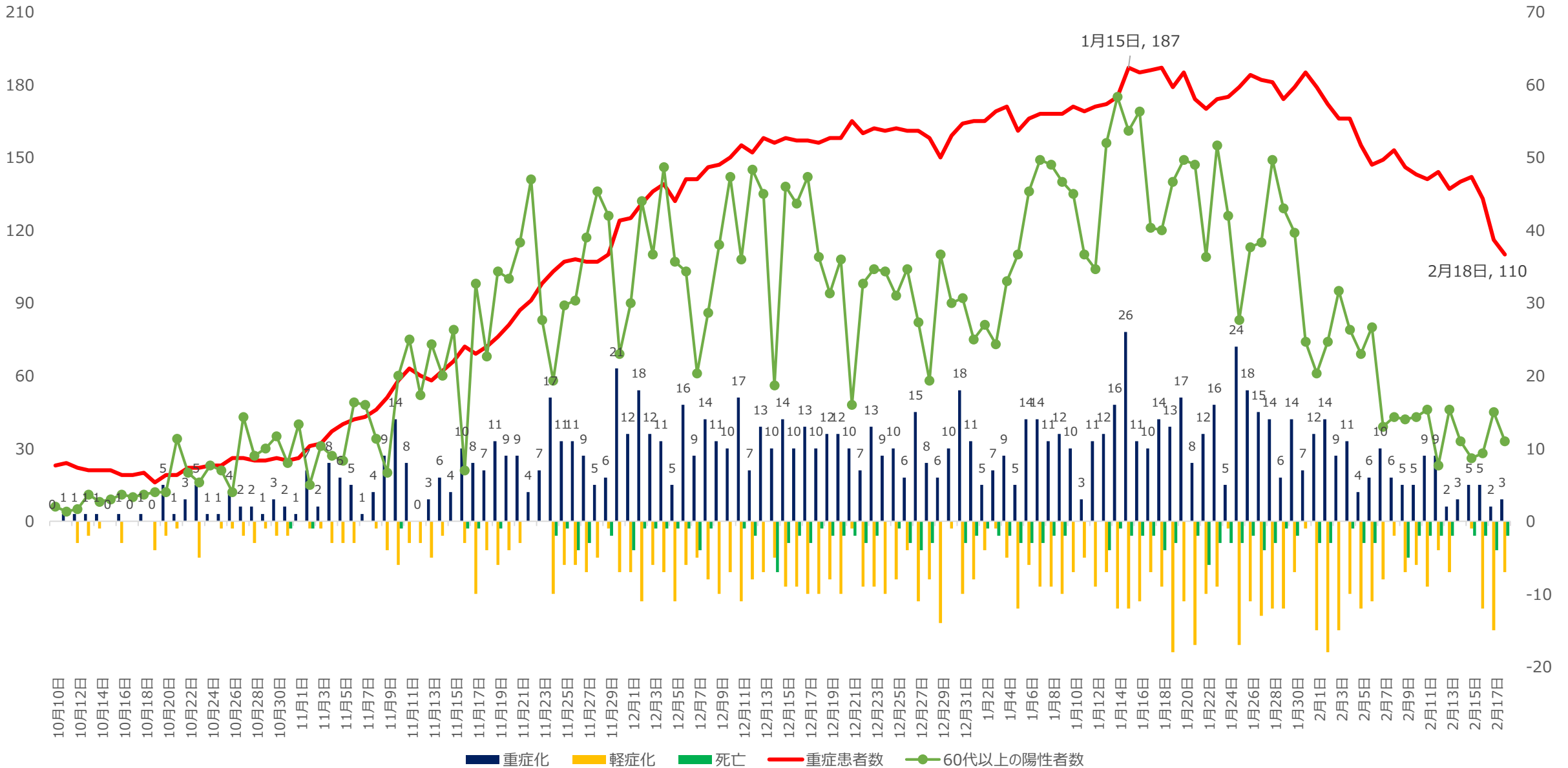


新規陽性者数と重症者数の推移

60代以上の新規陽性者数と重症患者数の推移（報道提供日ベース）

60代以上の新規陽性者数と重症患者数

重症化・軽症化・死亡の人数

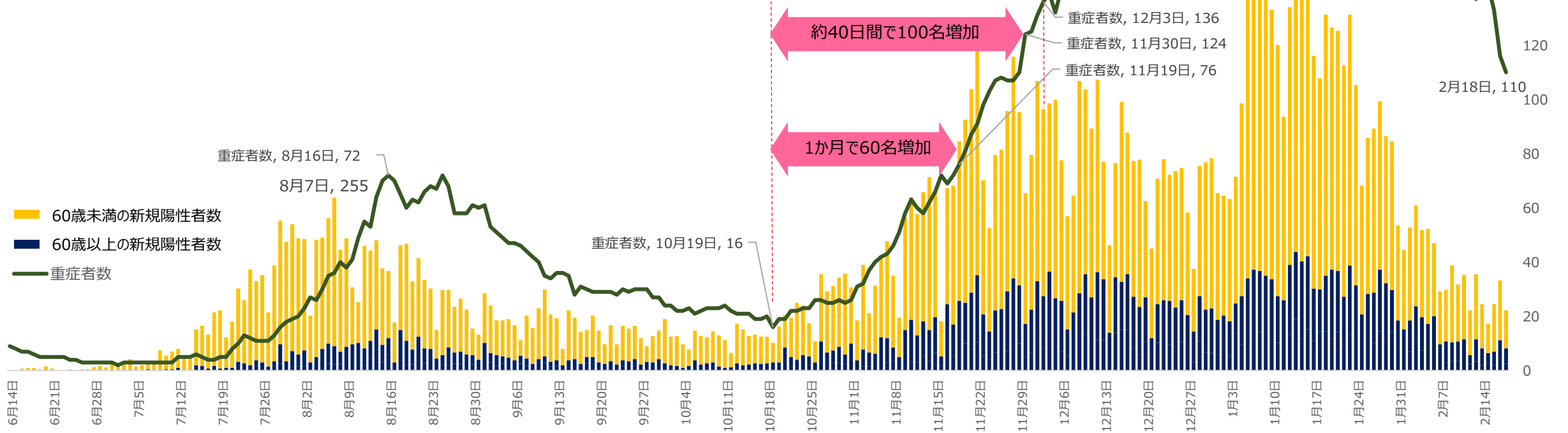


陽性者の年齢区分と重症者数の推移

陽性者数

	10/19	11/19	11/30	12/3	1/15
新規陽性者数※	54	252	335	374	533
重症者数	16	76	124	136	187

※7日間移動平均の値



	8/6-8/12	8/13-8/19	8/20-8/26	8/27-9/2	9/3-9/9	9/10-9/16	9/17-9/23	9/24-9/30	10/1-10/7	10/8-10/14	10/15-10/21	10/22-10/28	10/29-11/4	11/5-11/11	11/12-11/18	11/19-11/25	11/26-12/2	12/3-12/9	2/10-12/16	2/17-12/23	2/24-12/30	12/31-1/6	1/7-1/13	1/14-1/20	1/21-1/27	1/28-2/3	2/4-2/10	2/11-2/17
新規陽性者数	1261	1110	851	615	480	571	402	388	357	360	392	646	843	1185	1660	2422	2560	2402	2396	1996	1874	2326	3830	3715	2870	1928	1122	770
60代以上の陽性者数	252	307	221	185	128	106	95	97	61	57	99	162	202	311	451	689	761	727	855	703	640	666	941	1035	848	701	395	247
割合(%)	20.0	27.7	26.0	30.1	26.7	18.6	23.6	25.0	17.1	15.8	25.3	25.1	24.0	26.2	27.2	28.4	29.7	30.3	35.7	35.2	34.2	28.6	24.6	27.9	29.5	36.4	35.2	32.1

新規陽性者数は26.8%減

新規陽性者数は79.9%減

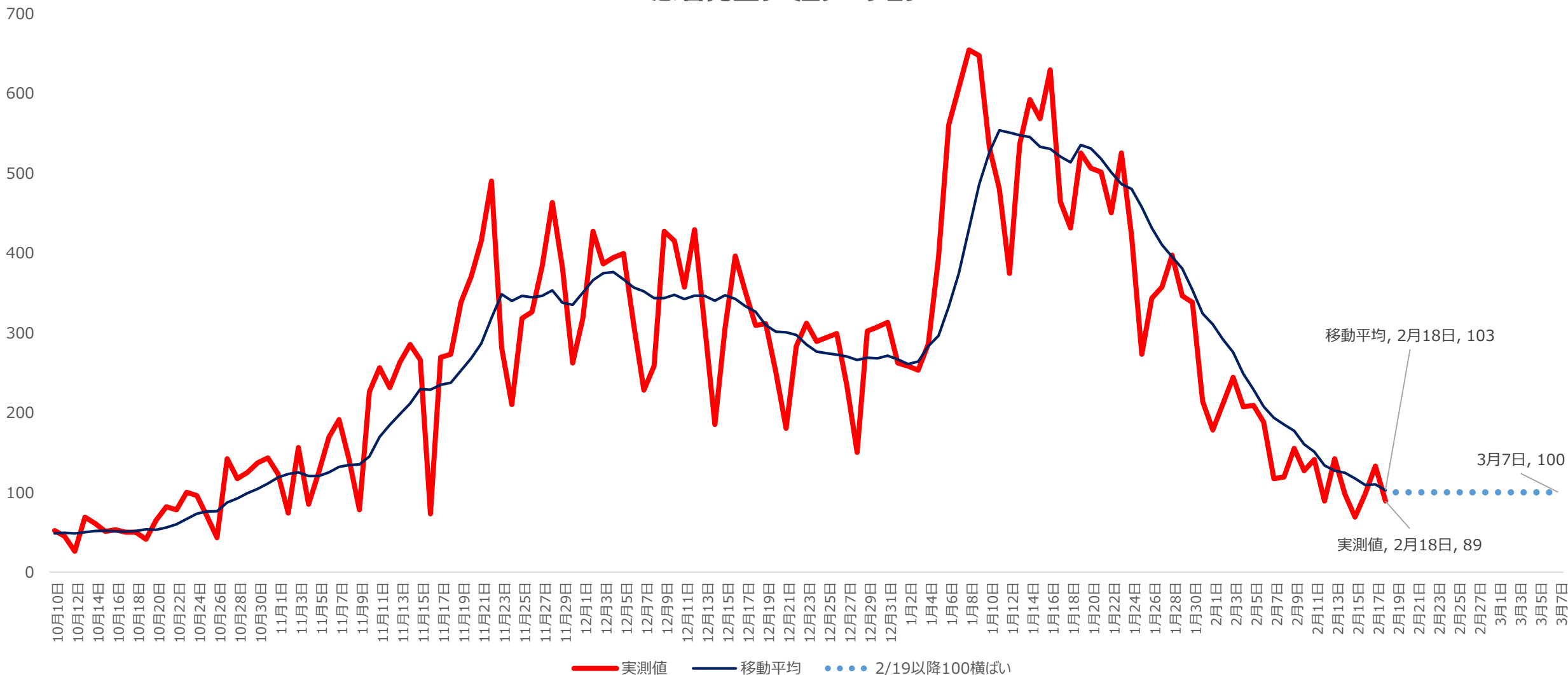
60代以上陽性者数は15.9%減

60代以上陽性者数は73.8%減

新規陽性者数の推移と患者発生シミュレーション

■ 令和3年3月7日（緊急事態宣言期間中）までは、100名/日（参考：2月18日時点の直近7日間移動平均値が103）の横ばいで推移すると想定し、療養者数のシミュレーションを実施。

患者発生シミュレーション



重症者数のシミュレーション

前日の重症者数に「重症化する人数」、「軽症化する人数」、「死亡する人数」を差し引きし、今後の重症者数のシミュレーションを実施。

前日の重症者数			
△	重症化する人数	診断時に重症	当日の40代・50代及び60代以上の陽性者数から、 ①新規陽性者における重症率、②診断時に重症である者の割合を用いて算出
		軽症から重症化	当日の40代・50代及び60代以上の陽性者数から、 ①新規陽性者における重症率、②診断時に無症状軽症である者の割合、③重症化するまでの日数を用いて算出
▼	軽症化する人数		④重症から軽症化するまでの日数を用いて算出
▼	死亡する人数		⑤重症から死亡する者の割合、⑥重症化してから死亡するまでの日数を用いて算出

【第三波(10/10～2/10)における60代以上の新規陽性者10,188名の療養状況から以下の割合及び日数を算出】

- ①60代以上の新規陽性者における重症率：**8.6%**
(60代以上の新規陽性者10,188名のうち、重症者は875名)
- ②重症者のうち、診断時に重症である者の割合：28.5%、診断時に無症状軽症である者の割合：71.5%
(重症者875名のうち、診断時に重症であった者は249名、無症状軽症であった者は626名)
- ③診断時に無症状軽症である者(N=626)が重症化するまでの日数：4.27±4.13(平均値±標準偏差)

- ④重症者が軽症化するまでの日数：11.54±9.68(平均値±標準偏差)
(2月10日時点で軽症化した575名から算出)
- ⑤重症から死亡する者の割合：19.5%
(2月10日時点の死亡者171名から算出)
- ⑥重症化してから死亡するまでの日数：17.12±10.60(平均値±標準偏差)
(2月10日時点の死亡者171名から算出)

【第三波(10/10～2/10)における40代・50代の新規陽性者9,423名の療養状況から以下の割合及び日数を算出】

- ①40代・50代の新規陽性者における重症率：**1.8%**
(40代・50代の新規陽性者9,423名のうち、重症者は171名)
- ②重症者のうち、診断時に重症である者の割合：18.1%、診断時に無症状軽症である者の割合：81.9%
(重症者171名のうち、診断時に重症であった者は31名、無症状軽症であった者は140名)
- ③診断時に無症状軽症である者が重症化するまでの日数：3.81±2.96(平均値±標準偏差)

- ④重症者が軽症化するまでの日数：9.32±8.90(平均値±標準偏差)
(2月10日時点で軽症化した151名から算出)
- ⑤重症から死亡する者の割合：4.1%
(2月10日時点の死亡者7名から算出)
- ⑥重症化してから死亡するまでの日数：18.29±15.44(平均値±標準偏差)
(2月10日時点の死亡者7名から算出)

療養者数のシミュレーション

入院患者数（重症）シミュレーション

令和3年3月7日（緊急事態宣言期間中）までは、100名/日（参考：2月18日時点の直近7日間移動平均値が103）の横ばいで推移すると想定し、療養者数のシミュレーションを実施。

【陽性者数の設定の考え方】

■ 60代以上の新規陽性者を

33名/日（※1）と設定。

■ 40代・50代の新規陽性者数を

29名/日（※1）と設定。

※1：2月18日時点の7日間移動平均値

【重症率の設定の考え方】

■ 60代以上の新規陽性者の重症率は

8.6%（※2）と設定。

■ 40代・50代の新規陽性者の重症率は

1.8%（※2）と設定。

※2：資料1-2 P7参照

【療養方法と期間の設定の考え方】

■ 重症患者以外の陽性者のうち、

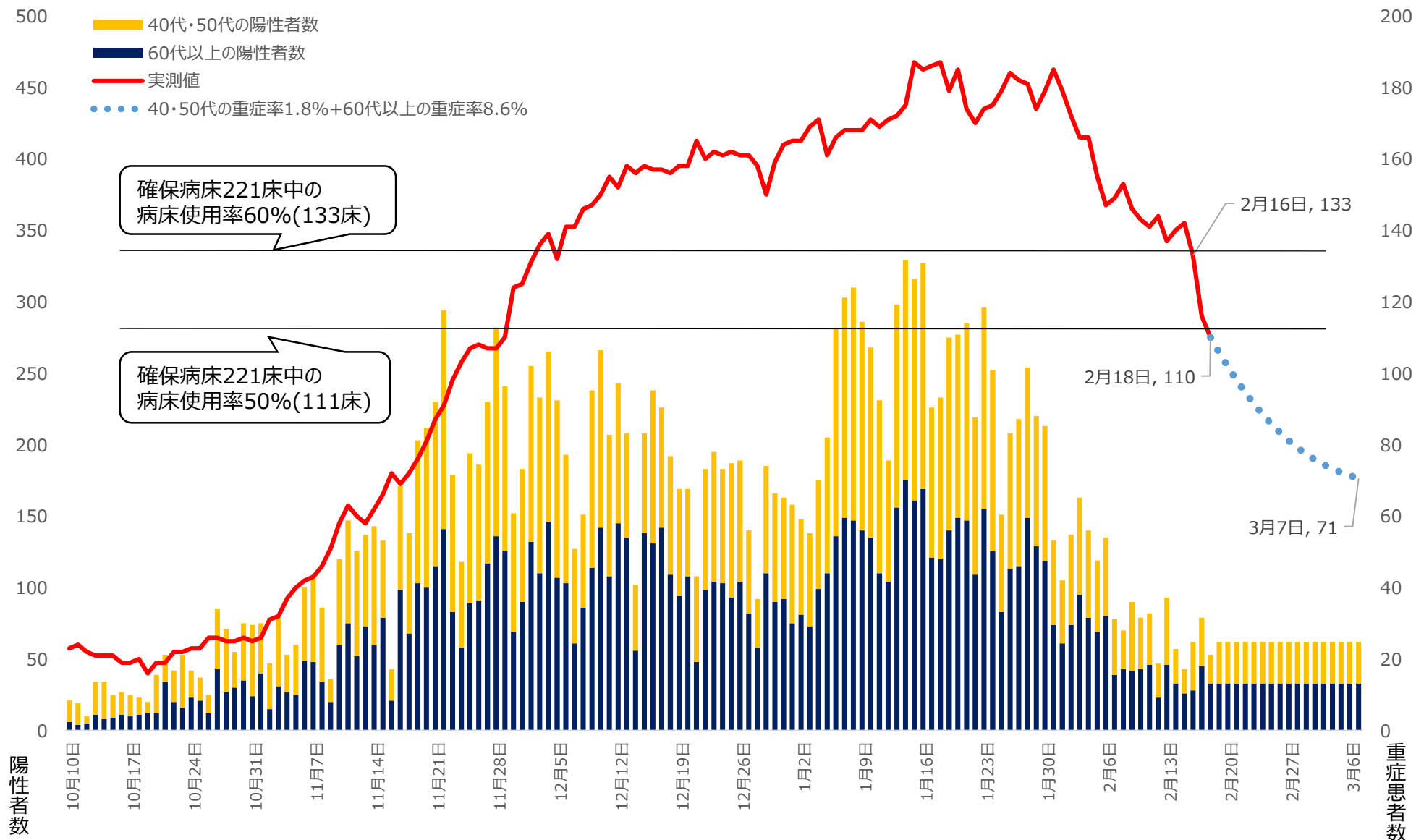
23.4%は入院療養、40.1%は宿泊療養、36.5%は自宅療養となる。

（第三波（12/21時点）実測値）

■ 重症以外の入院療養者は約12日後に退院する。宿泊及び自宅療養者は

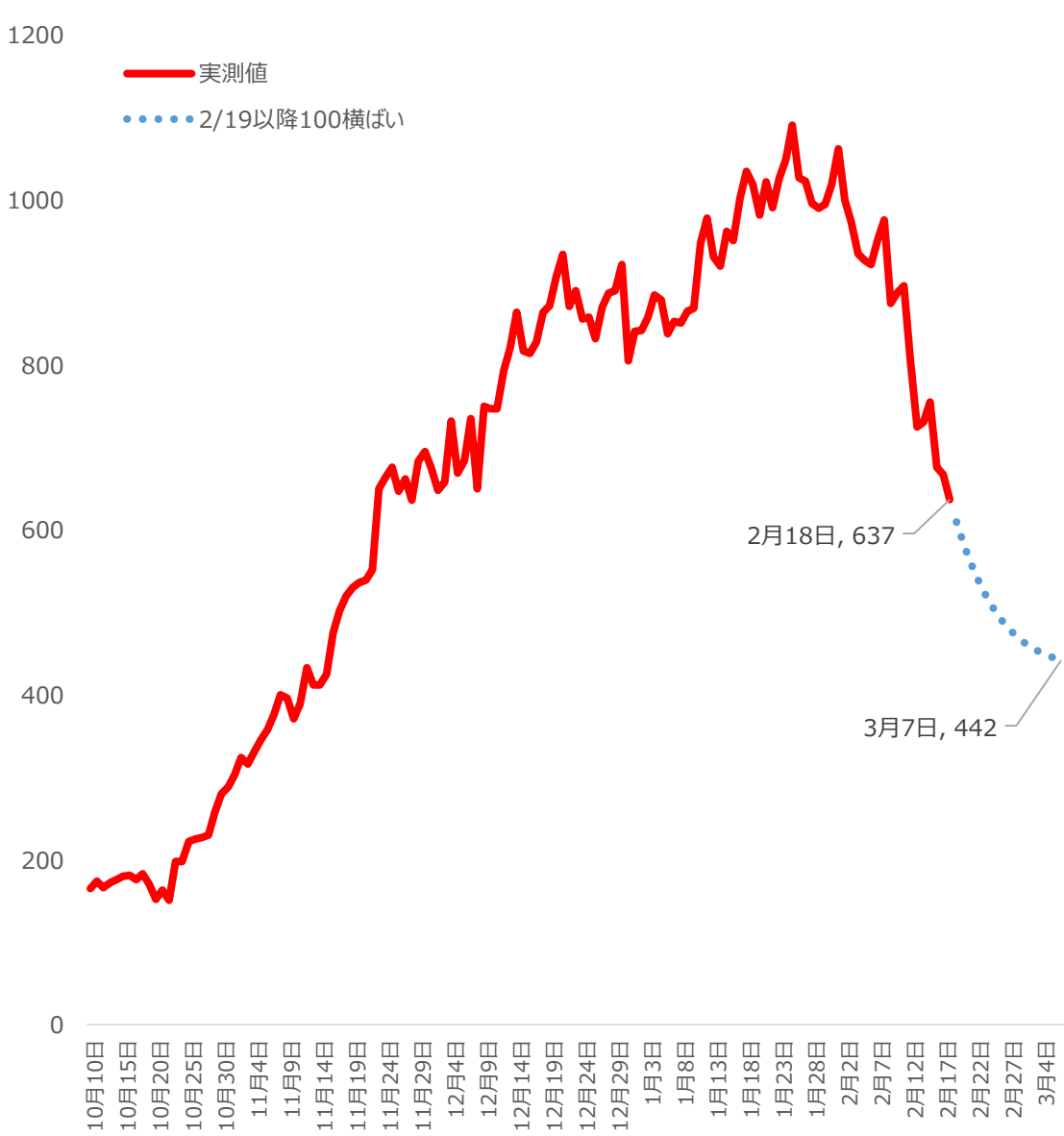
約7日後に解除となる。

（第三波（12/21時点）実測値）

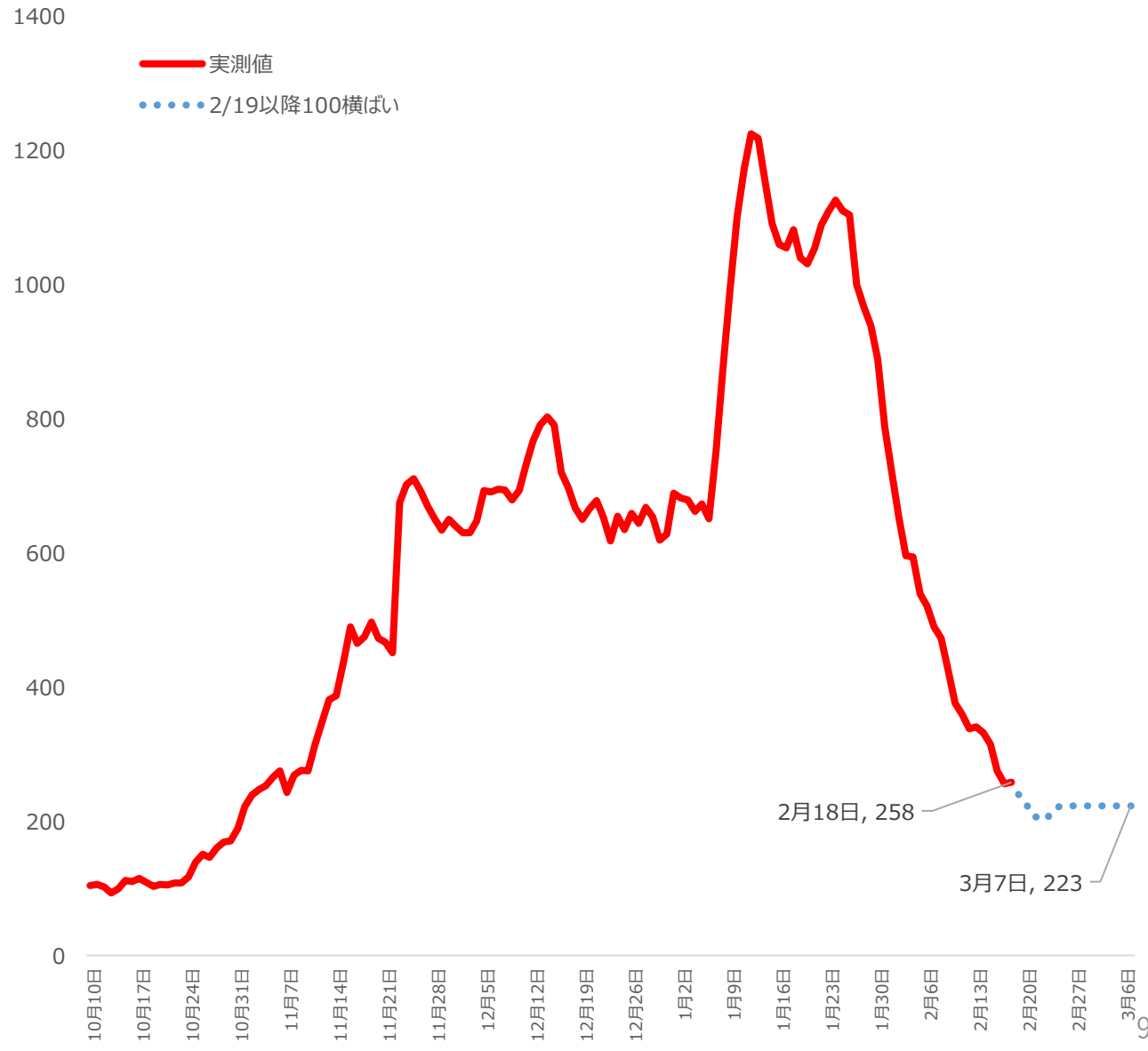


療養者数のシミュレーション

入院患者数（軽症中等症）シミュレーション



宿泊療養者数シミュレーション



1. 外出自粛等の呼びかけ(2/16現在)

○市町村の取組み(1/14~)

- ▶ 全市町村において、不要不急の外出自粛の呼びかけや飲食店等の見回り活動を実施
- ▶ 全市町村において、消防車・青パト・ゴミ収集車、防災行政無線、SNS、地域FM等による外出自粛の呼びかけ

○府・市町村合同の取組み

- ▶ 営業時間短縮要請及び不要不急の外出自粛の呼びかけ
 - ・東大阪市・高槻市(1/15):JR高槻駅・阪急高槻市駅・近鉄布施駅前での外出自粛呼びかけ、時短要請(訪問店舗数316店舗)
 - ・枚方市(1/29):京阪枚方市駅・樟葉駅前での外出自粛呼びかけ

2. 営業時間短縮要請への協力状況(2/16現在)

○市町村の取組み(1/14~)

- ▶ 繁華街などの飲食店等の夜間見回り
 - ・全市町村 :約97%(18,274/18,769店舗)の店舗が協力

○大阪府の取組み

- ▶ 飲食店等に対する営業前の聞き取り及び夜間の見回り
 - ・緊急事態宣言後(1/14~)



【大阪市北区】天神橋筋



【高槻市】高槻市駅周辺

ステッカー登録数92,502件
[うち飲食関係64,020件]

実施期間	エリア
1/14~	大阪府内全域

時短協力状況			
	エリア	営業前聞き取り	夜間見回り
ステッカー登録店舗以外も含め店舗を確認(10,023店舗)	大阪府内全域	—	96%が協力 (9,621 / 10,023店舗)
ステッカー登録店舗を確認(161店舗)		100%が協力 (161/161店舗)	—

※その他、街の外観を確認：約2,400店舗のうち、概ね8~9割が協力

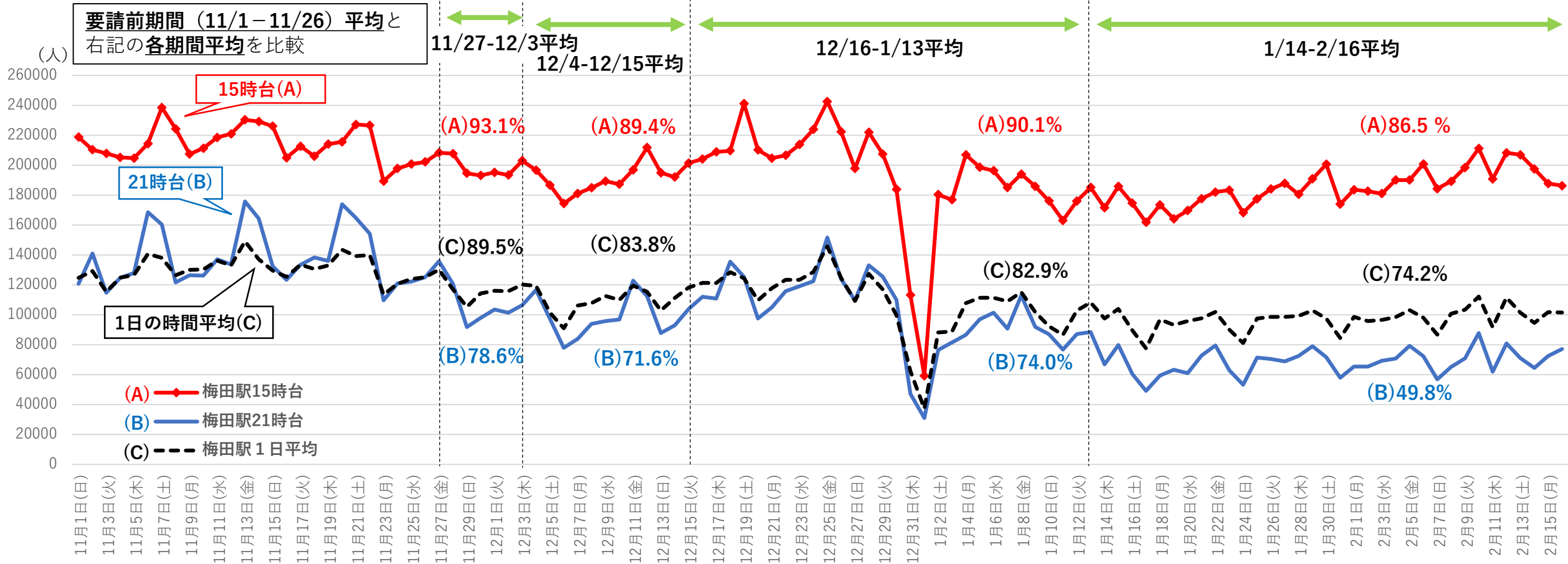
・緊急事態宣言前(11/27~1/13)

実施期間	エリア
11/27~12/15	大阪市北区・中央区
12/16~ 1/13	大阪市内全域

時短協力状況			
	エリア	営業前聞き取り	夜間見回り
ステッカー登録店舗を確認(3,124店舗)	大阪市内全域	97%が協力 (717/738店舗)	89%が協力 (2,120/2,386店舗)
ステッカー登録店舗以外も含め街の外観を確認		—	約1,500店舗のうち概ね8~9割が協力

【時間帯別】滞在人口の推移（梅田駅15時台・21時台）

資料 1 - 4



11/21 イエローステージ2へ移行
5人以上、2時間以上の宴会自粛

11/27 大阪市北区中央区に休業時短要請

12/4 レッドステージへ移行
できる限り、不要不急の外出自粛

12/16 不要不急の外出自粛
大阪市全域に休業時短要請

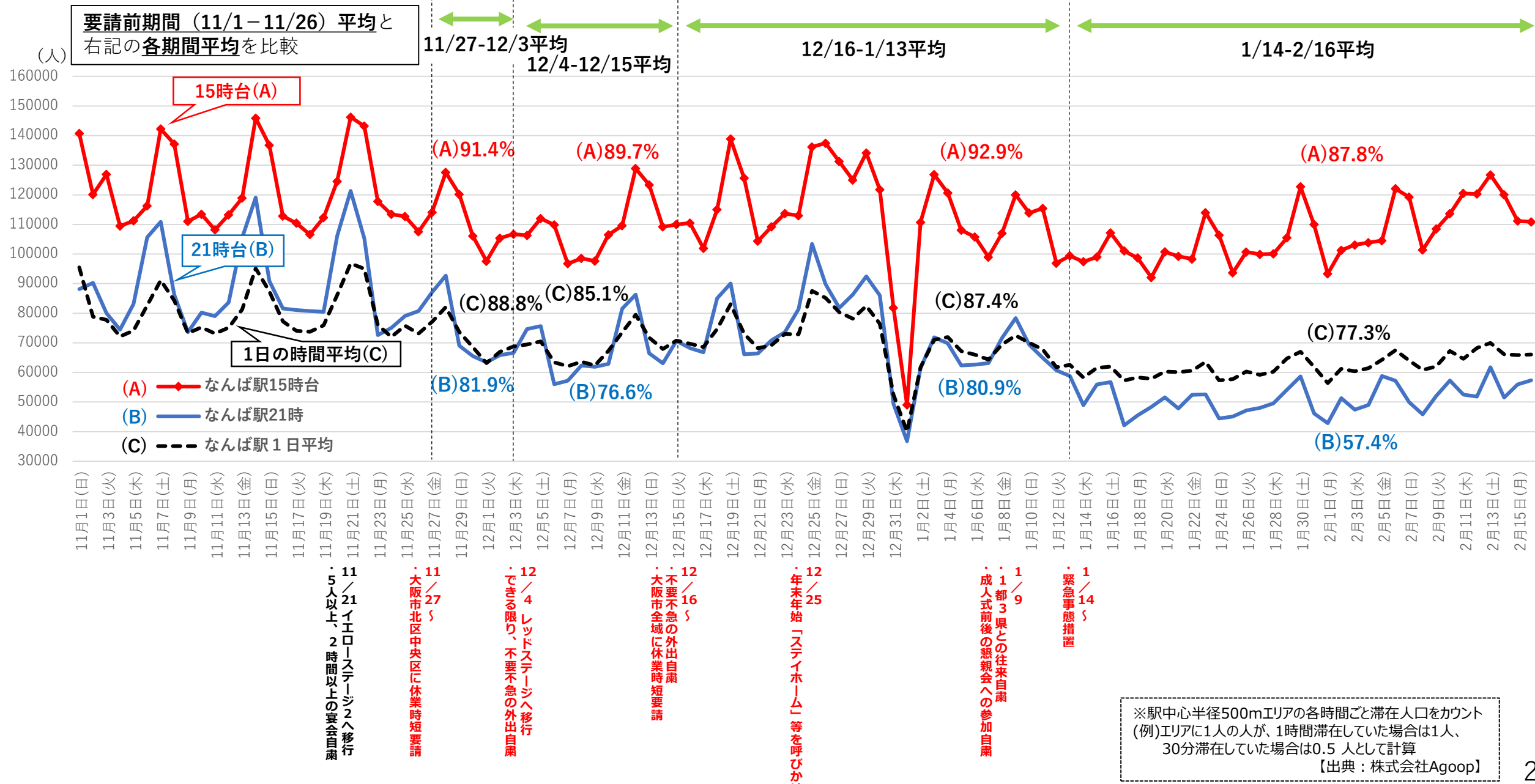
12/25 年末年始「ステイホーム」等呼びかけ

1/9 1都3県との往来自粛
成人式前後の懇親会への参加自粛

1/14 緊急事態措置

※駅中心半径500mエリアの各時間ごと滞在人口をカウント
(例) エリアに1人の人が、1時間滞在していた場合は1人、
30分滞在していた場合は0.5人として計算
【出典：株式会社Agoop】

【時間帯別】滞在人口の推移（なんば駅15時台・21時台）



発生状況及び緊急事態措置解除要請に関する専門家のご意見

専門家	意見
朝野座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規陽性者数は 103 人/日（1 週間の合計 10 万人あたり 8.15 人）まで減少してきている、重症病床使用率は 50%以下まで減少してきている。 ・ 次の波に備えて、医療のひっ迫を回避するために、十分に重症病床使用率を下げておくことが求められている。そのために新規陽性者数を下げることが必要と考えられている。 ・ しかし、どこまで下げたら次の波が来ても充分対応可能であるのかの根拠はない。次の波が大きければ、使用率が低くとも、短期間で病床はひっ迫する。 ・ <u>重要なことはこれまでの経験を踏まえて次の波を予測し、感染者の増加の傾向を察知した場合には、感染者の増加を抑える対策を実施し、病床数を増やすことができるかという点である。次の波の予測は、それぞれの地域が独自に判断し対策すべきであり、全国统一の予測では適切な対応ができない。</u> ・ <u>この予測は、長期的なトレンドの予測ではなく、いわば天気予報のごとく、科学的データを基に、適切なパラメーター（天気予報でいえば、低気圧や高気圧など）をえらび、直近の未来（2 週間程度）を的確に判断することであり、ここでは従来の予測と分けるために「流行予報」と呼ぶことにする。</u> ・ 2 週間後を確実に流行予報できなければならぬと考えるのは、2 週間後に陽性者数として現れるのは、今すでに起こっている結果であるからである。 ・ <u>新規陽性者数は、20 代、30 代の陽性者数が増加に転じていないので、1 週間程度先までの増加の可能性は低い。</u> ・ <u>重症患者は、60 歳以上の陽性者数が減少傾向を続けているため、資料 1-2 の 7 ページ（重症者は 60 歳以上が 80%以上、そのうち 70%は軽症・無症状から重症化し、重症化までの時間は平均 4.3 日）のデータから 5 日程度先まで増加する可能性は低い。</u> ・ <u>したがって、ステージⅢ相当の新規陽性者数 300 人/日以下、病床使用率 50%未満（小さな増減はある）はこれから 1 週間程度保証される。</u> ・ <u>そのため、緊急事態宣言の出ている近畿 2 府 1 県および近隣の自治体との話し合いによって解除要請を検討する段階と考える。</u> ・ <u>ただし、流行予報のパラメーターは各自治体の人口構成、社会状況、他府県からの人の往来などによって異なるため、それぞれの自治体の判断が重要。</u> ・ <u>運用病床数の減少は、3 次救急や高難度手術など他に必要な疾患の患者の医療を行うためであり、COVID-19 のフェーズ別病床計画にあるように、必要に応じて可変的に運用している結果である。このことは、むしろ COVID-19 の減少による医療資源の有効な活用であり、各医療機関の合理的な判断である。私たちの病院も、直近での重症者の増加の可能性は低いと判断し、大阪府と協議し、受け入れ病床数を一時的に減らして診療強化のための改築をこの機会に行うことにしている。</u> ・ <u>このように病床使用率は相対的なものであり、また各自治体によっても病床のカウントが異なることから、ステージ分類の基準となっている 50%や 20%という数値は目安であり、医療機関のひっ迫の度合いを正確に反映しているとは言い難い。そこで、大阪府では病床ひっ迫の現状を最もよく知ることのできるフォローアップセンターに病床ひっ迫の合理的な基準を提示していただき（例えば重症の入院要請 1 病院、1 回/日以上など）、新しい大阪モデルの指標に修正することを提案する。</u> ・ <u>重症病床は、次の波に備えて、これまでの経験から使用数 20 床以下（現在 110 床）までの減少が望ましいため、さらなる感染者数の減少とポストコロナの患者さんの適切な転院調整を継続していただきたい。</u>

専門家	意見
掛屋副座長	<p>先週より更に新規陽性患者数が減少していることが確認された。また、大阪モデルの府民に対する非常事態解除の基準である「重症病床使用率が7日間連続60%未満」は満たしていないが、7日間の平均をすると60%を下回っている。今後の重症シミュレーションでも減少が予測され、来週にも基準を満たす可能性があるが、それを確認いただきたい。人口密集地である大阪府の患者数の動向は近隣他府県にも影響が大きいと、慎重に判断して周囲と足並みをそろえることが望ましいと考える。今回は府域の飲食店等への時短要請が功を奏したものと考えるが、解除の際は段階的な解除をお願いしたい。一部の飲食店では感染対策が全く講じられていない施設も見かけるため、「飲食店における感染対策の徹底」を行政から再指導いただくことを期待する。</p>
佐々木委員	<p>大阪府の緊急事態宣言解除要請の基準は simple でわかりやすく、数値的にも妥当であると思うが、医療現場からは、病床の逼迫状態、特に intensive な治療を要する重症病床の逼迫度が重要と思っている。今回、基準①「新規陽性者数が7日連続300人以下」に関しては、1月31日に214人と300人を切り、その後2月18日の89人に至るまで2週間以上300人以下が続いており、特に直近1週間の1日平均は103名と新規感染者数は明らかに減少している。一方、基準②「重症病床使用率が7日連続60%未満」に関しては、まだ2日連続であり、基準を満たしていない。①かつ②を満たしていないので、今すぐの解除は見合わせるべきと思う。ただ、この7日間の使用率の動きを見ると、61%、58.1%、59.3%、64.3%、60.2%、52.5%、49.8%であり、この3日間減少傾向を示しており、重症病床の逼迫状態は解除されつつあると思う（中・軽症病床の逼迫状態はもっと緩和されている）。従って、①の基準を満たしつつ、重症病床の使用率がさらに5日間（2月23日まで）60%未満を継続すれば、7日間連続して②基準を満たしたことになるので、2月下旬（慎重を期す意味では3月始め）には、とりえず緊急事態宣言解除も可能かと思う。</p> <p>緊急事態解除後も、3月から4月にかけては、送別会や歓迎会など感染対策の緩みがちな多人数、長時間に及ぶ宴会が増えることが予想されるので、自粛要請の継続は必要で、緩和するにしても段階的にするべきと考える。</p>
茂松委員	<p>重症病床の運用率は49.5%であるが、最近は一進一退の状況で、解除を国に要請する基準「重症病床使用率が7日間連続60%未満」を満たす状況になっていない。依然として注意が必要なレベルであると考え。新規陽性者数の推移についても、高止まりの兆候を示しているようにも見える。</p> <p>近隣府県の動きを見ると、兵庫県が国に緊急事態宣言の解除を求める基準を満たしていない状況。緊急事態宣言下にある大阪府・京都府・兵庫県は、人の往来が多く、一体的に取り扱うのが理想で、大阪府自身が楽観視できる状況には達していないこと、兵庫県も解除基準を満たしていないことや、変異株が確認されていることも勘案すると、もう1週間ほど様子を観察するのが妥当と考える。</p>

専門家	意見
白野委員	<p>【重症病床の現状】</p> <p>新規陽性者数の減少から約2週間遅れで重症病床使用率も低下してきており、2月17日に60%を切っている。重症患者を受け入れている当院においても、集中治療室への新規入院患者は減少しており、負担は徐々に軽減されている。</p> <p>⇒緊急事態宣言による経済への打撃も考慮したうえで、<u>宣言解除については前向きに検討してよいと考える。</u></p> <p>【解除後のお願い】</p> <p><u>病床は決して余裕があるわけではなく、解除後に油断するとすぐに陽性者数、重症者数ともに再増加し、病床がひっ迫する可能性がある。解除後も引き続きある程度の時短要請や府民への行動自粛要請は必要である。</u></p> <p>⇒<u>今後重症者の増加をなるべく抑えるため、解除後は以下のような対応をお願いしたい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、基礎疾患を有する人など重症化リスクを有する人は引き続き、不要不急の外出を控える。必要な外出の際もマスク着用、手指消毒剤の携行など、感染対策を強化する。家庭においてもこまめな消毒や換気を行うなど、対策を呼びかける。 ・上記のような重症化リスクを有する人と同居する人や職場で接する人も同様。 ・医療機関や高齢者施設でのクラスター発生を抑えるため、これらの施設に対する研修の実施、相談窓口の設置、クラスターになる前の少数陽性者判明時点で早期に介入・相談できる制度を構築するなど、陽性者が少ないうちにできる対策を実施しておく。 ・第3波の反省を生かし、重症者数が増加傾向にある際には時短要請などブレーキを早めにかけるようにする。 ・3～4月は卒業、退職、異動などで飲食の機会が増えると予想される。引き続き業種ごとに感染拡大予防ガイドラインを遵守することや、遵守している飲食店を利用するなど、府民に広く呼びかける。 <p>【その他（救急医療現場からの意見）】</p> <p>結核（疑いを含む）患者の受け入れ先が見つからないなど、新型コロナウイルス感染症以外の感染症医療への影響が大きくなっている。感染症以外の救急医療自体への影響も大きい。<u>各医療機関の特性に応じ、これまで担っていた医療機能を維持できるよう、バランスを考えた病床確保が必要。</u></p>

専門家	意見
<p>倭委員</p>	<p>新規陽性者数は直近 1 週間の 1 日平均が 103 名と大きく減少した。また、60 代以上の割合も減少している。新型コロナウイルス感染症対策分科会におけるモニタリング指標の状況を見ると 2/17 時点で、いずれの指標もステージ IV の基準を下回り、医療提供体制等の負荷の指標以外はステージ III の基準も下回っている。大阪府の独自の解除基準で見ると重症病床使用率も 2 月 17 日に 52.5%、18 日に 49.8%と 60%未満となっている。新規陽性者数の推移と患者発生シミュレーション、入院患者数（重症）シミュレーションなどを見ても今後の減少は予測され、基準（1）はもとより、基準（2）重症病床使用率が、7 日間連続 60%未満も来週 23 日には満たすことが推測される。また、京都府、兵庫県と同時に解除要請を行う方針とも合わせて考えると、すでに基準を満たしている京都府に続き、兵庫県においても重症病床使用率が基準の 50%を 2 日連続で下回っており来週中に 7 日連続で満たすことが予想されることから、<u>このまま順調に進めば来週半ばに緊急事態宣言解除要請を行うことは妥当である</u>と考える。ただし、急に解除を行うことによる感染者数の揺れ戻しにより 3 月末から 4 月初めに次の大きな波が来ることが予想されるため、<u>段階的な時短要請の解除が必要であると思われる</u>。また、<u>高齢者施設、障がい者施設での引き続きの感染対策の徹底、感染者の発生の早期発見によるクラスター発生防止と感染拡大の最小化の体制の徹底および退院基準を満たした患者の老人保健施設や後方医療機関での積極的な受け入れを促進し、陽性患者対応の医療機関の病床のひっ迫を解消する取り組みが今後も引き続き必要である</u>。これまで重症者の退院基準として大阪府では発症 20 日経過かつ症状軽快後 72 時間経過した場合には PCR 等検査不要と独自基準を設けていた。厚生労働省からはこれまで重症者の退院基準は別に設けられていなかったが、重症者では発症後 15 日程度はウイルスを体外に排出している可能性があるとの研究報告に基づき、発症から 10 日ではなく 15 日が経過かつ症状軽快から 72 時間経過すれば PCR 検査なしで退院を認めるとの新たな基準が設けられた。<u>これに基づく大阪府の重症者の退院基準より 5 日早い</u>ため、より早期に重症病床を回転させることが可能になる。ただし、<u>患者の重症度や免疫不全の状態を鑑みての慎重な隔離解除、退院の判断は求められる</u>。また、今後、大阪府においても拡大が予想される変異株の患者では PCR 検査を行うなど退院の是非を慎重に検討することも求められる。その観点からは今後の大阪府の取り組みとして変異株の積極的なスクリーニングをより進めることが必要であると考える。</p> <p>また、ワクチン接種を可能な限り順調に進めることが極めて重要である。</p>

【緊急事態措置の解除を国に要請する基準について】（2/1 第36回対策本部会議決定）

以下の、①又は②を満たす場合に、専門家の意見を聞いた上で国への要請について最終判断する。

- ① 7日間移動平均の新規陽性者数が、7日間連続300人以下となること
- ② 重症病床使用率が、7日間連続60%未満となること

【第37回対策本部会議（2月9日開催）時の状況】

	2月2日	2月3日	2月4日	2月5日	2月6日	2月7日	2月8日
① 7日間移動平均の新規陽性者（人）	292	275	248	229	207	193	185
	○	○	○	○	○	○	○
②重症病床使用率（%）	72.9	70.3	70.3	65.7	62.3	63.1	64.8
	●	●	●	●	●	●	●

⇒ 専門家意見を踏まえ議論した結果、第38回対策本部会議において、国に要請するかどうか判断することとした。

【現在の状況】

	2月12日	2月13日	2月14日	2月15日※	2月16日	2月17日	2月18日
① 7日間移動平均の新規陽性者（人）	134	127	124	117	109	110	103
	○	○	○	○	○	○	○
②重症病床使用率（%）	61.0	58.1	59.3	64.3	60.2	52.5	49.8
	●	○	○	●	●	○	○

※ 受入医療機関への再確認の結果、2月15日付けで重症病床「確保病床数」を236床から221床に更新。

⇒ 前回より、①は約100人前後減少、②は約10ポイント低下し直近では50%を下回り、各指標の改善がみられる。
また、新規陽性者の状況を見ると、今後さらに重症病床使用率の改善が予想される。

- 国に緊急事態措置の解除を要請する。なお、要請にあたっては、京都府、兵庫県と共同で行う。
- また、緊急事態措置が解除された場合の営業時間短縮の要請は、段階的解除を検討する。
具体的な要請内容は、感染状況及び病床状況を踏まえ、緊急事態措置の解除決定後、対策本部会議で決定する。

朝野座長ご提案の緊急事態宣言解除要請の考え方について

【朝野座長ご提案の緊急事態宣言解除要請の考え方について】①かつ②を満たす場合 ※感染状況の変化に応じて指標は変更

①流行状況の予測（20代、30代の陽性者数の移動平均の推移）

陽性者数300人／日以下、かつ20代、30代の陽性者数の移動平均が継続して増加していないこと

②重症病床数の推移の予測（60代以上の陽性患者数の移動平均の推移）

重症病床使用率60%未満（※）、かつ60代以上の陽性者数の移動平均が継続して増加していないこと ※第37回本部会議の意見書の「以下」を「未満」に修正。

		2/9 (※1)	10	11	12	13	14	15 (※2)	16	17	18
①	陽性者数300人／日以下	177	160	151	134	127	124	117	109	110	103
	20代、30代の陽性者数の移動平均が継続して増加していないこと	44.9	42.6	42.3	38.7	38.9	40.1	38.7	34.6	35.0	32.6
②	重症病床使用率60%未満	61.9% (146/236)	60.6% (143/236)	59.7% (141/236)	61.0% (144/236)	58.1% (137/236)	59.3% (140/236)	64.3% (142/221)	60.2% (133/221)	52.5% (116/221)	49.8% (110/221)
	60代以上の陽性者数の移動平均が継続して増加していないこと	63.9	56.4	51.7	45.1	40.3	39.4	37.0	35.0	35.3	33.4

※1 第37回対策本部会議開催

※2 2/15に重症病床数を236床から221床に更新

【朝野座長ご提案の緊急事態宣言解除要請の考え方について】

○ 2月11日に①・②の指標を満たしている。（重症病床を221床に更新した後では、17日）

分析事項	モニタリング指標	府民に対する警戒の基準	府民に対する非常事態の基準	府民に対する非常事態解除の基準	府民に対する警戒解除の基準
(1)市中での感染拡大状況	①新規陽性者における感染経路不明者7日間移動平均前週増加比 ②新規陽性者における感染経路不明者数7日間移動平均	① 2以上かつ ② 10人以上	—	—	② 10人未満
	【参考①】新規陽性者における感染経路不明者の割合	—	—	—	—
(2)新規陽性患者の拡大状況	③ 7日間合計新規陽性者数	120人以上かつ後半3日間で半数以上	—	—	—
	④直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数	—	—	—	0.5人未満
	【参考②】陽性率（7日間）	—	—	—	—
(3)病床等のひっ迫状況	⑤患者受入重症病床使用率	—	70%以上 (「警戒（黄色）」信号が点灯した日から起算して25日以内)	7日間連続60%未満	60%未満
	【参考③】患者受入軽症中等症病床使用率 【参考④】患者受入宿泊療養施設部屋数使用率	—	—	—	—
各指標を全て満たした場合における信号		黄	赤	黄	緑

<考慮事項>

- 警戒基準引き上げにより、緩やかな感染拡大の兆候に対しては早期の探知が機能しないことから、都道府県による社会への協力要請を行うべき国が示した基準日の条件（直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数2.5人）を満たした場合には、指標①②に基づく感染経路不明者の増加傾向、及び新規陽性患者の日々の増加傾向を踏まえて、専門家会議の構成員等の意見を聴取し、対策本部会議で「警戒（黄色）」信号点灯の要否を決定するものとする。
- 国による緊急事態宣言が出された場合、対策本部会議で「非常事態（赤色）」信号点灯の要否を決定するものとする。

今後の対応（案）

上記を踏まえ、緊急事態宣言が発令されている間は、大阪モデルの非常事態（赤色）解除基準を満たした場合でも、暫定的に赤色信号を点灯させたままとし、緊急事態宣言解除と同日に赤色信号を消灯（黄色信号に移行）する。

◆ 病床運用の状況（R3.2.18現在） いずれも病床運用のフェーズは最大のフェーズ4ステージ2※1

	重症病床	軽症中等症病床
入院患者数/確保病床数 (使用率)	110人/221床※2 (49.8%)	637人/1,741床 (36.6%)
入院患者数/実運用病床数 (運用率)	110人/222床※2 (49.5%)	637人/1,590床 (40.1%)

※1：病床確保計画にはない運用上のフェーズ
 ※2：重症C(30床)含む

◆ 病床確保計画における次フェーズ移行の基準と各病院の計画病床数（合計） ※病床確保計画は第3波を踏まえ改定予定

【重症病床】

【軽症中等症病床】

フェーズ	次フェーズ 移行の基準 (病床確保計画)	各病院計画 病床 (合計)	重症 C	【軽症中等症病床】		
				次フェーズ 移行の基準 (病床確保計画)	各病院計画 病床 (合計)	
フェーズ 1	概ね27人以上で次のフェーズへ準備	約75床	5~	フェーズ 1	概ね225人以上で次のフェーズへ準備	約800床
フェーズ 2	概ね36人以上で //	約100床	10床	フェーズ 2	概ね360人以上で //	約1,100床
フェーズ 3	概ね105人以上で //	約150床	15~	フェーズ 3	概ね700人以上で //	約1,300床
フェーズ 4	概ね170人以上で //	約180床	20床	フェーズ 4	概ね1,000人以上で //	約1,600床
フェーズ 4-2	-	191床	30床	フェーズ 4-2	-	1,728床

◀現在、病床確保計画上の基準では、重症病床はフェーズ4相当、軽症中等症病床はフェーズ3相当にあたる▶

【参考】 重症病床：フェーズ4に移行した場合 ⇒ (運用見込) 110人/約200床※1 運用率見込み約55%

軽症中等症病床：フェーズ3に移行した場合 ⇒ (運用見込) 637人/約1,200床※2 運用率見込み約55%

※1：各病院の運用見込数 約180床+重症C20床

※2：新規受入病院等準備中の医療機関があるため、計画病床数の総計（約1,300床）と一致しない。

緊急事態宣言解除時にフェーズ移行する旨、予め病院に通知し通常医療へシフトする準備を進めてもらう

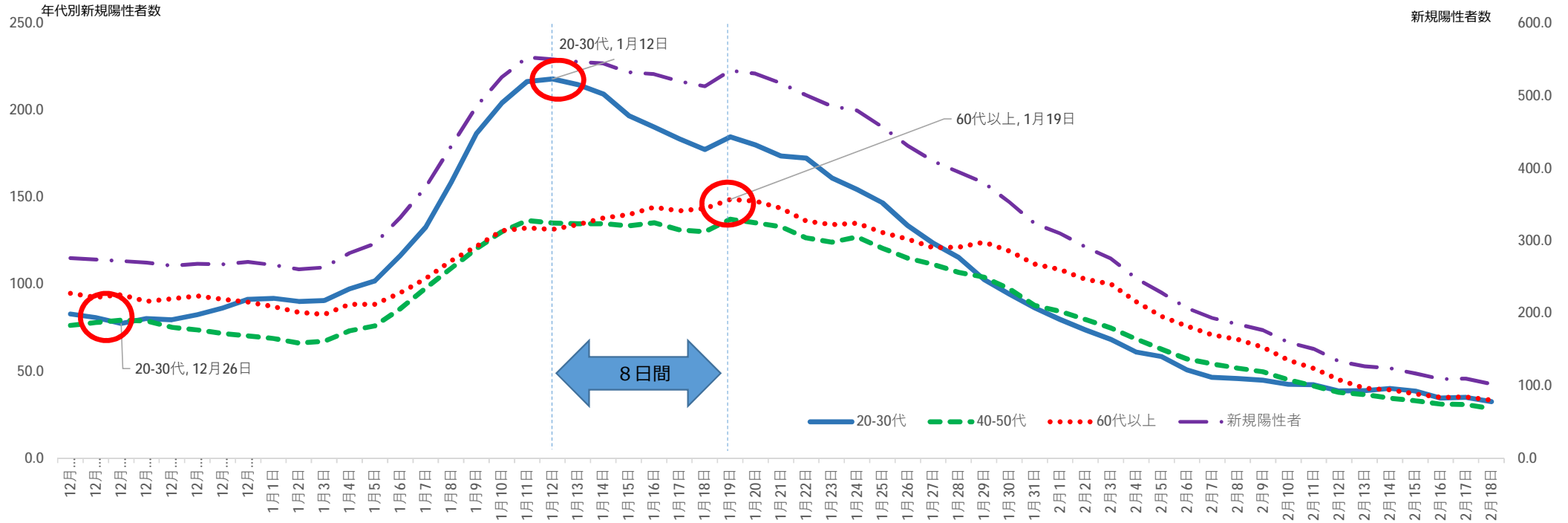
【第37回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議 朝野座長のご意見】

- 2週間後に起こることは確実に今起こっていることとなり、これを知ることができれば、2週間後の未来を知ることができるようになる。
- これまでのデータを分析し、2週間後に起こることを今知ることのできる方法の例として年齢階層別の検査陽性者数の推移を監視するセンチネル（見張り番）サーベイランスを提案する。
 - ・流行のきっかけをより早く知るには、20代、30代の検査陽性者の日ごとの移動平均の推移の観察で推定感染日同時期に増加の兆候を察知することができる。
 - ・重症病床の使用率は、60歳以上の感染者数の推移の監視で予測することができる。



第三波・第二波における「年代別新規陽性者数移動平均の推移」を分析し、年齢階層別の検査陽性者数の推移を監視するセンチネル（見張り番）サーベイランスが可能かを検証する。
なお、60代以上新規陽性者数移動平均と重症患者数の推移については、重症シミュレーション（資料1 - 2）により、都度、予測を反映。

【第三波 年末以降】年代別新規陽性者数7日間移動平均



- 1/6 新規陽性者数560人
- 1/7 新規陽性者数607人
- 1/8 新規陽性者数過去最多654人
対策本部会議にて緊急事態
宣言発令要請を決定
- 1/9 緊急事態宣言発令を要請

1/14 緊急事態措置

U 第三波（年末以降）は20～30代から感染が拡大。
 U 第三波の感染収束については、20～30代から減少。20～30代新規陽性者数7日間移動平均がピークを迎えて約1週間後に他の年代が減少に転じている。

【第三波 年末以降】20～30代新規陽性者数7日間移動平均からみる感染拡大の兆候

		12/20	12/21	12/22	12/23	12/24	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29	12/30	12/31	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5	1/6	1/7	1/8	1/9	1/10	1/11	1/12
		日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
大阪モデル指標	新規陽性者数	250	180	283	312	289	294	299	233	150	302	307	313	262	258	253	286	394	560	607	654	647	532	480	374
国指標	直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数	23.89	23.83	23.57	22.62	21.92	21.77	21.63	21.44	21.10	21.32	21.26	21.53	21.17	20.70	20.93	22.47	23.52	26.39	29.72	34.17	38.58	41.75	43.95	43.72
見張り番指標(案)	20・30代陽性者数の7日間移動平均	88.43	87.00	87.86	84.86	83.00	81.00	77.57	80.43	79.71	82.57	86.43	91.43	92.00	90.29	90.71	97.43	102.00	116.57	132.86	158.57	186.86	204.14	216.71	218.14
	20・30代陽性者数の7日間移動平均前週増加比	0.87	0.86	0.88	0.89	0.88	0.88	0.86	0.91	0.92	0.94	1.02	1.10	1.14	1.16	1.13	1.22	1.24	1.35	1.45	1.72	2.07	2.25	2.22	2.14
	20・30代陽性者数の7日間移動平均前日増加比	0.98	0.98	1.01	0.97	0.98	0.98	0.96	1.04	0.99	1.04	1.05	1.06	1.01	0.98	1.00	1.07	1.05	1.14	1.14	1.19	1.18	1.09	1.06	1.01
	新規陽性者に占める20・30代の割合(移動平均)	29.4%	29.0%	29.6%	29.8%	30.0%	29.5%	28.5%	29.8%	30.0%	30.8%	32.3%	33.7%	34.5%	34.6%	34.4%	34.4%	34.4%	35.1%	35.5%	36.9%	38.5%	38.8%	39.2%	39.6%
参考	新規陽性者数の7日間移動平均	301.14	300.43	297.14	285.14	276.29	274.14	272.43	270.00	265.71	268.43	267.71	271.14	266.57	260.71	263.57	283.00	296.14	332.29	374.29	430.29	485.86	525.71	553.43	550.57
	新規陽性者数の7日間移動平均前週増加比	0.87	0.88	0.86	0.83	0.83	0.84	0.88	0.90	0.88	0.90	0.94	0.98	0.97	0.96	0.98	1.07	1.10	1.24	1.38	1.61	1.86	1.99	1.96	1.86
	新規陽性者数の7日間移動平均前日増加比	0.97	1.00	0.99	0.96	0.97	0.99	0.99	0.99	0.98	1.01	1.00	1.01	0.98	0.98	1.01	1.07	1.05	1.12	1.13	1.15	1.13	1.08	1.05	0.99

U 想定される「見張り番指標(案)」の状況

- ・前週増加比、前日増加比が「4日連続して1を超える」日：1/2、1/1
- ・新規陽性者に占める20～30代の割合(移動平均)が「40%を超える」日：なし

(年末以降は40%を超える日はない)

(参考) 新規陽性者数7日間移動平均の前週増加比、前日増加比が「4日連続して1を超える日」：
1/7、1/6。

⇒対策本部会議において緊急事態宣言要請を決定した1月8日より早期に、20～30代新規陽性者数7日間移動平均の増加傾向が見られる。

1/6
新規陽性者数560人

1/7
新規陽性者数607人

1/8
新規陽性者数過去最多654人
対策本部会議にて
緊急事態宣言発令要請を決定

1/9
緊急事態宣言発令を要請

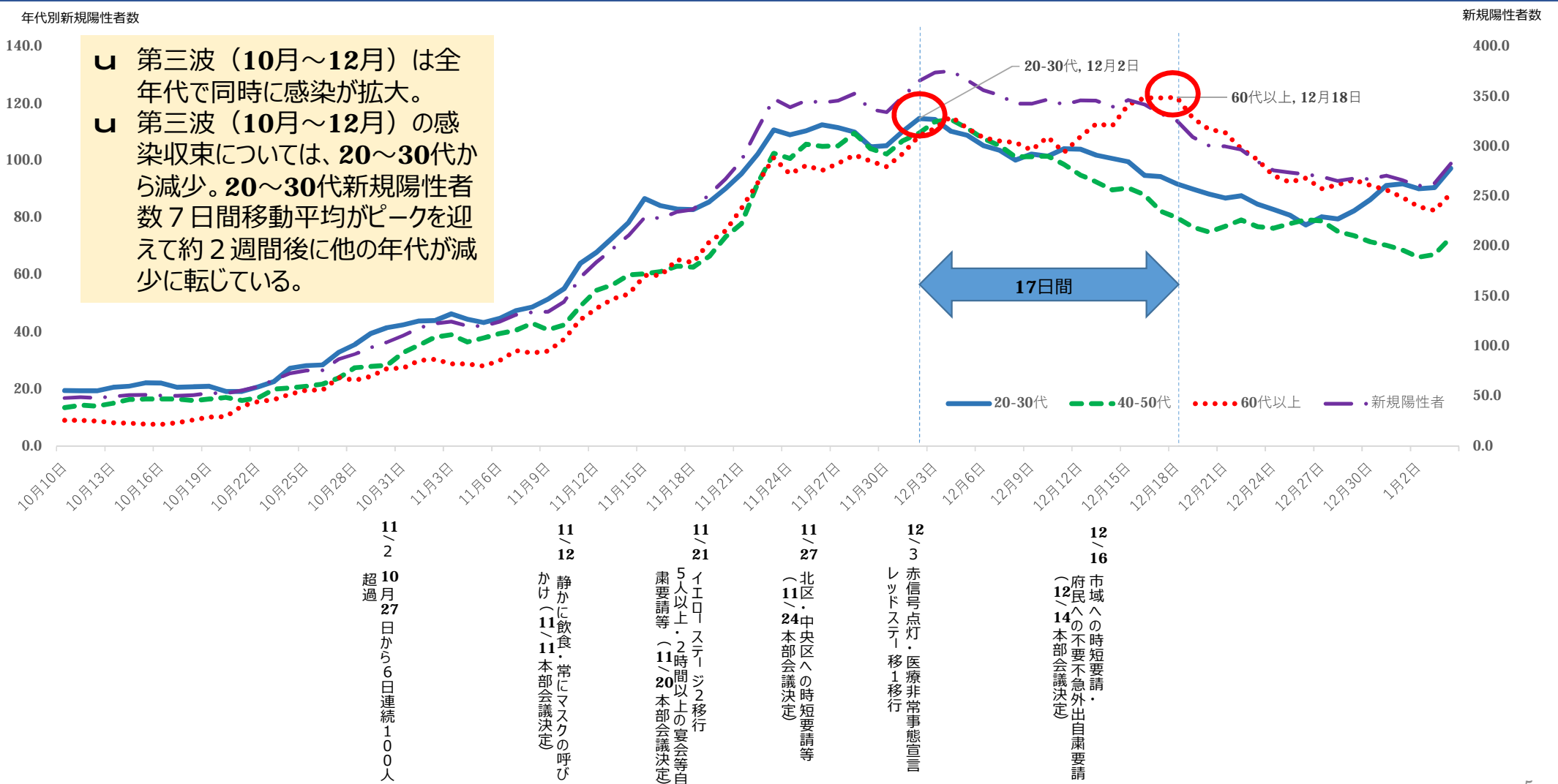
(参考) 20・30代新規陽性者数移動平均 前週・前日増加比を4日以上とする根拠

u 9月11日のように、その日だけ新規陽性者数が急増した場合に、20～30代新規陽性者数7日間移動平均前日増加比が「3日連続1を超える」ケースがあった。
 ⇒感染拡大の兆候をとらえるためには、「4日(以上)連続1を超える場合」とすることが適当。



		9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	9/16	9/17	9/18
		金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
大阪モデル指標	新規陽性者数	74	76	67	45	81	63	92	120	83	77	32	89	78	57	60
国指標	直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数	6.38	6.22	6.28	6.19	5.81	5.44	5.64	6.17	6.24	6.36	6.21	6.30	6.47	6.07	5.39
見張り番指標(案)	20・30代陽性者数の7日間移動平均	31.71	31.43	33.71	32.57	31.00	29.29	30.43	32.57	32.86	32.29	31.71	32.43	33.00	31.00	27.29
	20・30代陽性者数の7日間移動平均前週増加比	0.73	0.78	0.92	0.90	0.86	0.86	0.93	1.03	1.05	0.96	0.97	1.05	1.13	1.02	0.84
	20・30代陽性者数の7日間移動平均前日増加比	0.97	0.99	1.07	0.97	0.95	0.94	1.04	1.07	1.01	0.98	0.98	1.02	1.02	0.94	0.88
	新規陽性者に占める20・30代の割合(移動平均)	39.4%	40.1%	42.6%	41.8%	42.3%	42.7%	42.8%	41.9%	41.7%	40.3%	40.5%	40.8%	40.5%	40.5%	40.1%
参考	新規陽性者数の7日間移動平均	80.43	78.43	79.14	78.00	73.29	68.57	71.14	77.71	78.71	80.14	78.29	79.43	81.57	76.57	68.00
	新規陽性者数の7日間移動平均前週増加比	0.75	0.77	0.85	0.85	0.80	0.78	0.84	0.97	1.00	1.01	1.00	1.08	1.19	1.08	0.88
	新規陽性者数の7日間移動平均前日増加比	0.95	0.98	1.01	0.99	0.94	0.94	1.04	1.09	1.01	1.02	0.98	1.01	1.03	0.94	0.89

【第三波 10月～12月】年代別新規陽性者数7日間移動平均



U 第三波（10月～12月）は全年代で同時に感染が拡大。
 U 第三波（10月～12月）の感染収束については、20～30代から減少。20～30代新規陽性者数7日間移動平均がピークを迎えて約2週間後に他の年代が減少に転じている。

【第三波 10月～12月】20～30代新規陽性者数7日間移動平均からみる感染拡大の兆候

			10/10	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30	10/31	11/1	11/2	11/3	11/4	11/5	11/6	11/7	11/8	11/9	11/10	11/11	11/12
			土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
大阪モデル指標	新規陽性者数		52	45	26	69	61	51	53	50	50	41	65	82	78	100	96	70	43	142	117	125	137	143	123	74	156	85	125	169	191	140	78	226	256	231
国指標	直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数		3.84	3.91	3.85	3.97	4.08	4.10	4.05	4.02	4.08	4.25	4.20	4.44	4.75	5.28	5.80	6.03	6.05	6.92	7.32	7.85	8.27	8.81	9.41	9.76	9.92	9.55	9.55	9.92	10.46	10.65	10.70	11.49	13.43	14.63
見張り番指標	20～30代陽性者数の7日間移動平均		19.57	19.43	19.43	20.71	21.14	22.29	22.14	20.71	20.86	21.00	19.29	19.29	20.86	22.71	27.43	28.29	28.57	33.00	35.71	39.57	41.57	42.57	44.00	44.14	46.43	44.57	43.43	44.86	47.57	48.86	51.57	55.29	64.14	68.00
	20～30代陽性者数の7日間移動平均前週増加比		0.90	0.89	0.87	0.94	0.99	1.22	1.16	1.06	1.07	1.08	0.93	0.91	0.94	1.03	1.32	1.36	1.36	1.71	1.85	1.90	1.83	1.55	1.56	1.55	1.41	1.25	1.10	1.08	1.12	1.11	1.17	1.19	1.44	1.57
	20～30代陽性者数の7日間移動平均前日増加比		1.02	0.99	1.00	1.07	1.02	1.05	0.99	0.94	1.01	1.01	0.92	1.00	1.08	1.09	1.21	1.03	1.01	1.16	1.08	1.11	1.05	1.02	1.03	1.00	1.05	0.96	0.97	1.03	1.06	1.03	1.06	1.07	1.16	1.06
参考	新規陽性者に占める20～30代の割合(移動平均)		40.4%	39.4%	40.0%	41.4%	41.1%	43.1%	43.4%	40.8%	40.6%	39.2%	36.4%	34.4%	34.8%	34.1%	37.5%	37.2%	37.5%	37.8%	38.7%	40.0%	39.9%	38.4%	37.1%	35.9%	37.1%	37.0%	36.1%	35.9%	36.1%	36.4%	38.2%	38.2%	37.9%	36.9%
	新規陽性者数の7日間移動平均		48.43	49.29	48.57	50.00	51.43	51.71	51.00	50.71	51.43	53.57	53.00	56.00	59.86	66.57	73.14	76.00	76.29	87.29	92.29	99.00	104.29	111.00	118.57	123.00	125.00	120.43	120.43	125.00	131.86	134.29	134.86	144.86	169.29	184.43
	新規陽性者数の7日間移動平均前週増加比		0.91	0.95	0.95	0.96	1.01	1.10	1.06	1.05	1.04	1.10	1.06	1.09	1.16	1.31	1.44	1.48	1.42	1.65	1.65	1.65	1.57	1.52	1.56	1.61	1.43	1.30	1.22	1.20	1.19	1.13	1.10	1.16	1.41	1.53
	新規陽性者数の7日間移動平均前日増加比		1.00	1.02	0.99	1.03	1.03	1.01	0.99	0.99	1.01	1.04	0.99	1.06	1.07	1.11	1.10	1.04	1.00	1.14	1.06	1.07	1.05	1.06	1.07	1.04	1.02	0.96	1.00	1.05	1.02	1.00	1.07	1.17	1.09	

U 想定される「見張り番指標（案）」の状況

- ・前週増加比、前日増加比が「4日連続して1を超える」日：10/18、10/25
- ・新規陽性者に占める20～30代の割合（移動平均）が「40%を超える」日：

10/10、12～18、29

（参考）新規陽性者数7日間移動平均の前週増加比、前日増加比が「4日連続して1を超える日」：10/17、10/24

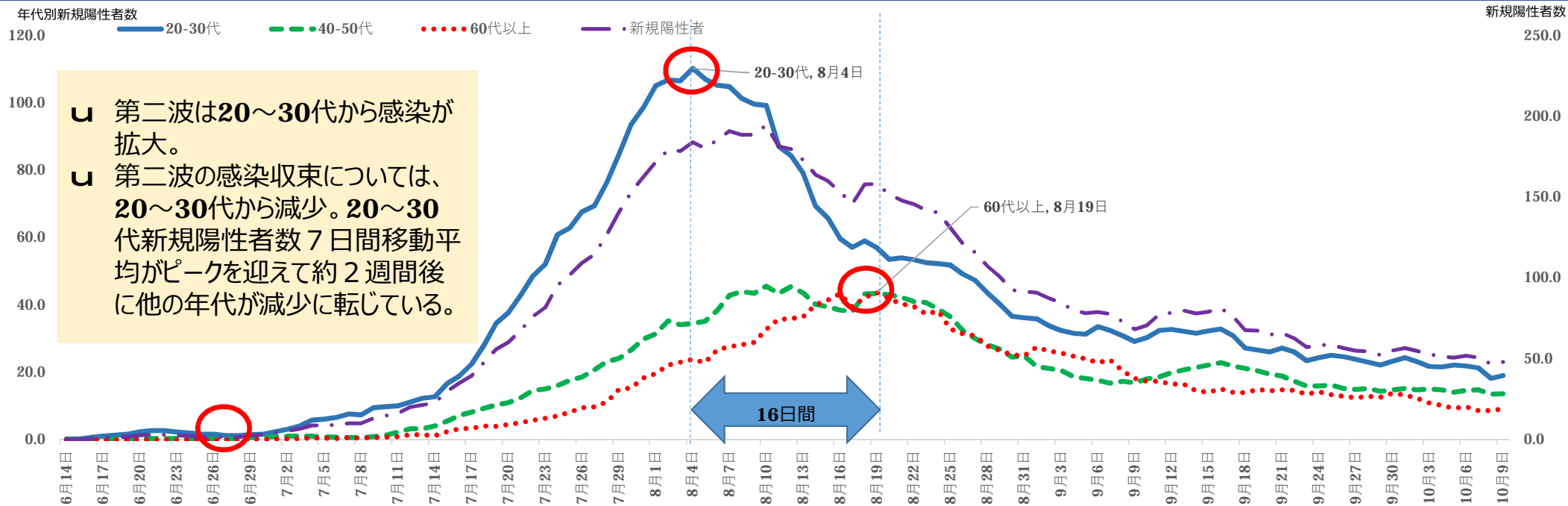
⇒ 20～30代新規陽性者数7日間移動平均は、新規陽性者数7日間移動平均とほぼ同時に増加。

また、対策本部会議において、静かに飲食・常にマスクの呼びかけを決定した11月11日より早期に、20～30代新規陽性者数7日間移動平均の増加傾向が見られる。

11/2
10/27日から6日連続1000人超過

11/12
（11）11本部会議決定
静かに飲食・常にマスクの呼びかけ

【第二波】年代別新規陽性者数7日間移動平均



7/9 20代中心に注意喚起

7/12 黄色信号点灯

8/15 以上の宴会等自粛要請
 (7/28本部会議)

8/16 ミニ地区の一部への短要請等
 (7/31本部会議)

【第二波】20～30代新規陽性者数7日間移動平均からみる感染拡大の兆候

		6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28
		日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
大阪モデル指標	新規陽性者数	1	0	3	4	4	2	6	3	0	0	2	1	2	2	5
	7日間累計新規陽性者数	2	2	5	9	12	14	20	22	22	19	17	14	14	10	12
	7日間累計のうち後半3日間累計新規陽性者数	1	1	4	7	11	10	12	11	9	3	2	3	5	5	9
	感染経路不明者の7日間移動平均	0.14	0.14	0.29	0.43	0.29	0.43	0.71	0.71	0.71	0.57	0.57	0.71	0.71	0.57	1.29
	感染経路不明者の7日間移動平均前週増加比	0.50	0.50	1.00	1.50	0.67	1.00	2.50	5.00	5.00	2.00	1.33	2.50	1.67	0.80	1.80
国指標	直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数	0.02	0.02	0.06	0.10	0.14	0.16	0.23	0.25	0.25	0.22	0.19	0.16	0.16	0.11	0.14
見張り番指標(案)	20・30代陽性者数の7日間移動平均	0.29	0.29	0.71	1.14	1.43	1.71	2.43	2.71	2.71	2.29	2.00	1.71	1.71	1.29	1.29
	20・30代陽性者数の7日間移動平均前週増加比	0.00	0.00	0.00	0.00	10.00	12.00	17.00	9.50	9.50	3.20	1.75	1.20	1.00	0.53	0.47
	20・30代陽性者数の7日間移動平均前日増加比	2.00	1.00	2.50	1.60	1.25	1.20	1.42	1.12	1.00	0.84	0.88	0.86	1.00	0.75	1.00
	新規陽性者に占める20・30代の割合(移動平均)	100.0%	100.0%	100.0%	88.9%	83.3%	85.7%	85.0%	86.4%	86.4%	84.2%	82.4%	85.7%	85.7%	90.0%	75.0%
参考	新規陽性者数の7日間移動平均	0.29	0.29	0.71	1.29	1.71	2.00	2.86	3.14	3.14	2.71	2.43	2.00	2.00	1.43	1.71
	新規陽性者数の7日間移動平均前週増加比	1.00	1.00	2.50	4.50	4.00	4.67	10.00	11.00	11.00	3.80	1.89	1.17	1.00	0.50	0.55
	新規陽性者数の7日間移動平均前日増加比	1.00	1.00	2.50	1.80	1.33	1.17	1.43	1.10	1.00	0.86	0.89	0.82	1.00	0.71	1.20

u 想定される「見張り番指標(案)」の状況

・前週増加比、前日増加比が「4日連続して1を超える」日：6/21、6/19

※ただし、感染規模が極めて小さい(新規陽性者数が0～1人など)ことから、前週増加比の値が大きい。

・新規陽性者に占める20～30代の割合(移動平均)が「40%を超える」日：6/14～8/15、8/26～28、9/5～18、9/20～10/7

(参考) 新規陽性者数7日間移動平均の前週増加比、前日増加比が「4日連続して1を超える日」：6/19

⇒20～30代新規陽性者数7日間移動平均は、新規陽性者数7日間移動平均とほぼ同時に増加。

⇒前週増加比は、感染規模が極めて小さい場合は機能しない。

【第二波】20～30代新規陽性者数移動平均からみる感染拡大の兆候

		6/27	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18
		土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
大阪モデル指標	新規陽性者数	2	5	7	5	10	8	11	17	6	8	12	10	30	22	28	32	18	20	61	66	53	86
	7日間累計新規陽性者数	10	12	19	24	32	39	48	63	64	65	72	72	94	105	116	142	152	160	211	247	278	336
	7日間累計のうち後半3日間累計新規陽性者数	5	9	14	17	22	23	29	36	34	31	26	30	52	62	80	82	78	70	99	147	180	205
	感染経路不明者の7日間移動平均	0.57	1.29	2.00	2.29	2.86	3.57	4.71	6.14	6.14	6.00	7.00	6.86	8.86	9.43	11.00	13.14	13.86	14.29	19.29	21.14	24.14	27.43
	感染経路不明者の7日間移動平均前週増加比	0.80	1.80	2.80	4.00	5.00	5.00	6.60	10.75	4.78	3.00	3.06	2.40	2.48	2.00	1.79	2.14	2.31	2.04	2.81	2.39	2.56	2.49
国指標	直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数	0.11	0.14	0.22	0.27	0.36	0.44	0.54	0.71	0.73	0.74	0.82	0.82	1.07	1.19	1.31	1.61	1.72	1.81	2.39	2.80	3.15	3.81
見張り番指標(案)	20・30代陽性者数の7日間移動平均	1.29	1.29	1.57	1.71	2.43	3.14	4.14	5.86	6.14	6.71	7.71	7.43	9.57	9.86	10.14	11.29	12.43	12.86	16.71	19.00	22.57	28.14
	20・30代陽性者数の7日間移動平均前週増加比	0.53	0.47	0.58	0.75	1.21	1.83	2.42	4.56	4.78	4.27	4.50	3.06	3.05	2.38	1.73	1.84	1.85	1.67	2.25	1.99	2.29	2.77
	20・30代陽性者数の7日間移動平均前日増加比	0.75	1.00	1.22	1.09	1.42	1.29	1.32	1.41	1.05	1.09	1.15	0.96	1.29	1.03	1.03	1.11	1.10	1.03	1.30	1.14	1.19	1.25
	新規陽性者に占める20・30代の割合(移動平均)	90.0%	75.0%	57.9%	50.0%	53.1%	56.4%	60.4%	65.1%	67.2%	72.3%	75.0%	72.2%	71.3%	65.7%	61.2%	55.6%	57.2%	56.3%	55.5%	53.8%	56.8%	58.6%
参考	新規陽性者数の7日間移動平均	1.43	1.71	2.71	3.43	4.57	5.57	6.86	9.00	9.14	9.29	10.29	10.29	13.43	15.00	16.57	20.29	21.71	22.86	30.14	35.29	39.71	48.00
	新規陽性者数の7日間移動平均前週増加比	0.50	0.55	0.86	1.26	1.88	2.79	3.43	6.30	5.33	3.42	3.00	2.25	2.41	2.19	1.84	2.22	2.34	2.22	2.93	2.63	2.65	2.90
	新規陽性者数の7日間移動平均前日増加比	0.71	1.20	1.58	1.26	1.33	1.22	1.23	1.31	1.02	1.02	1.11	1.00	1.31	1.12	1.10	1.22	1.07	1.05	1.32	1.17	1.13	1.21

U 想定される「見張り番指標(案)」の状況

- ・前週増加比、前日増加比が「4日連続して1を超える」日：7/4、7/2
- ・新規陽性者に占める20～30代の割合(移動平均)が「40%を超える」日：

6/14～8/15、8/26～28、9/5～18、9/20～10/7

(参考) 新規陽性者数の7日間移動平均の前週増加比、前日増加比が「4日連続して1を超える日」：7/3、7/1

⇒20～30代新規陽性者数7日間移動平均は、新規陽性者数7日間移動平均とほぼ同時に増加。

また、7月9日に20代を中心に注意喚起を行った日や12日の大阪モデル黄色信号点灯より早期に、20～30代新規陽性者数7日間移動平均の増加傾向が見られる。

7/9
20代中心に注意喚起

7/12
黄色信号点灯

20～30代新規陽性者数7日間移動平均による分析 まとめ

【第二波及び第三波から判明した事実】

- 第二波及び第三波（年末以降）は20～30代から感染が拡大しているが、第三波（10月～12月）は他の年代と同時に拡大。
- 第二波及び第三波（10月～12月）では、20～30代新規陽性者数7日間移動平均と新規陽性者数7日間移動平均はほぼ同時に増加。
- いずれの波においても、20～30代新規陽性者数7日間移動平均は、大阪モデル等での感染拡大の探知より早期に増加傾向。ただし、前週増加比は感染規模が極めて小さい場合、機能しない（第二波より）。
- 第二波及び第三波の感染収束にあたり、時短要請を行っているという条件のもとでは、20～30代新規陽性者数7日間移動平均がピークを迎えて約1週間後から2週間後（最長17日）に他の年代が減少に転じている。

【上記事実から言えること】

- 感染の波は必ずしも20～30代から始まるとは言えないが、
 - ・20～30代から拡大することが多い
 - ・大阪モデル等により感染拡大を探知するより早期に、20～30代新規陽性者数7日間移動平均が増加傾向にあることから、20～30代新規陽性者数7日間移動平均の増加傾向を注視することは、感染拡大の兆候を推察する一つの「見張り番」となる。なお、前週増加比は、感染規模が極めて小さい場合機能しないことから、「見張り番指標」として適さない。
⇒前日増加比を「見張り番指標」としてその推移を見ていくことが適当。
(なお、新規陽性者に占める20～30代の割合（移動平均）についても注視していく。)
- 時短要請を行った場合には、他の年代と比較し、20～30代から先に減少することから、20～30代新規陽性者数7日間移動平均の減少傾向を注視することは、感染収束の兆候を推察する一つの「見張り番」となる。

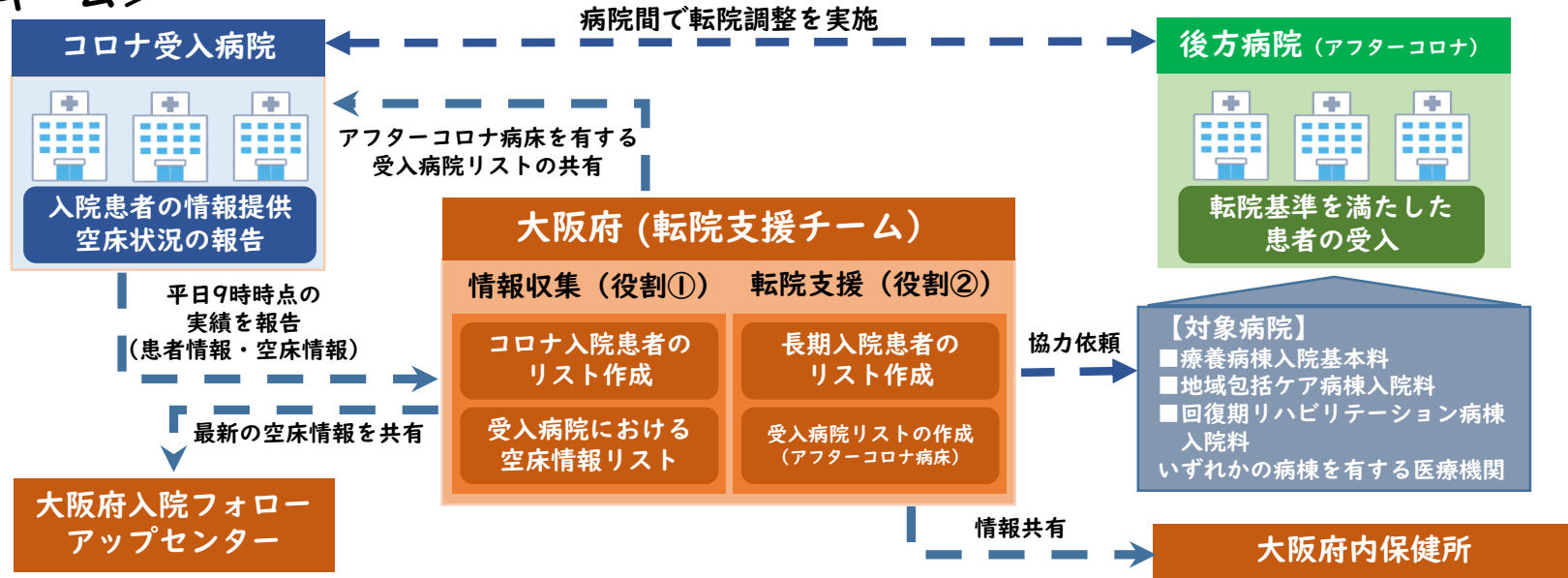


- 今後、20～30代新規陽性者数7日間移動平均の状況（前日増加比）を日々公表。
- その増加傾向や減少傾向が見られる場合は、府民に対する注意喚起を行うなど、感染状況に応じた取組みをすすめる。

<事業概要>

- コロナ入院患者データを一元化し、長期入院患者を理由別にリストアップ
- コロナ受入病院の空床情報、日々リストの更新により転院状況をモニタリング
- アフターケアの受入を行っていただける病院リストを作成し、コロナ受入病院へ情報提供

<事業スキーム>



コロナ受入病院へのヒアリングからみえた実態

> 入院期間について

中等症・軽症で入院した患者の
およそ **3割***が15日以上入院

* 2/5時点退院済み患者1,054例中292例（27.7%）

> 長期化理由について（入院20日以上）

・ 転院調整中	42件
・ 受入先なし	5件
・ コロナ以外の疾患	27件
・ その他	39件
・ コロナ症状が継続	74件

113件 **(60%)**

(2/5時点入院中及び退院済み患者、回答全187件)

『長期入院患者の**6割**が「コロナ感染症の症状**以外**」の理由により入院を継続している』

退院基準を満たした患者の円滑な転院支援による病床確保について

<転院支援に向けた取組み>

受入可能病院リストを作成、新型コロナ患者受入病院へのリストの提供、患者を受け入れた病院に対する支援金の支給などの対策を組み合わせることで、病病連携の推進に取り組み、長期入院患者の転退院の促進に繋げる

※ 2月16日付け厚労省事務連絡において「転院支援の必要性と具体的な仕組み」が示され、本府の取組みが先進的取組事例として紹介されている。

▶ コロナ退院（隔離解除）基準の周知

国において定めた退院（隔離解除）基準の更なる周知の徹底

▶ コロナ入院患者データの情報収集・精査

入院長期化理由の確認により退院基準到達患者を把握し、保健所と共有、管轄地域の患者の転院を支援

受入可能医療機関（療養病床等）概要

R3.2.12時点

▶ 受入可能病院リストの作成（アフターコロナ病床）

退院基準到達患者の受入可能病院リスト（療養病床等）を作成、コロナ受入病院に対して情報提供し、病病連携による転院を支援（2/12時点で120病院から協力をいただき、最大784床を確保）

医療圏	受入可能 医療機関数	受入可能人数			
		療養病床	包括ケア	回復リハ	計
1 豊能	8	11	13	5	29
2 三島	6	4	63	22	89
3 北河内	12	8	20	8	36
4 中河内	11	22	15	15	52
5 南河内	13	48	30	20	98
6 堺市	14	58	16	26	100
7 泉州	18	60	75	35	170
8 大阪市	38	91	76	43	210
	120	302	308	174	784

▶ 補助金制度の創設（令和3年1月から）

国の診療報酬上の加算措置に加え、大阪府独自の補助金制度を創設し、療養病棟入院基本料等の届出を行っている医療機関に対して、退院基準到達患者1名受入にあたり20万円の補助を実施し、後方支援病院を確保することで転院を支援

<今後の取組み>

残る府内全病院について、退院基準到達患者の受入可能病院リストを作成の上、コロナ受入病院に対して情報提供を予定するなど更なる取組みを進める。

- 保健所においては、業務重点化や本庁への業務一元化、全所体制の構築、一部業務への外部人材配置等を実施
- これまでの陽性者の増加には対応できたが、今後さらなる感染拡大が発生する恐れ
- 引き続き、積極的疫学調査・陽性者健康観察を継続実施していくためには、保健所の体制強化が必要
- ついては、さらなる陽性者増加に対応するため、積極的疫学調査・陽性者健康観察業務への外部人材配置により、保健所の体制を強化

